

平成30年度 業務実績報告書

令和元年6月

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院

I 法人の概要

1 法人の現況

(1) 法人名称
地方独立行政法人 岐阜県立下呂温泉病院

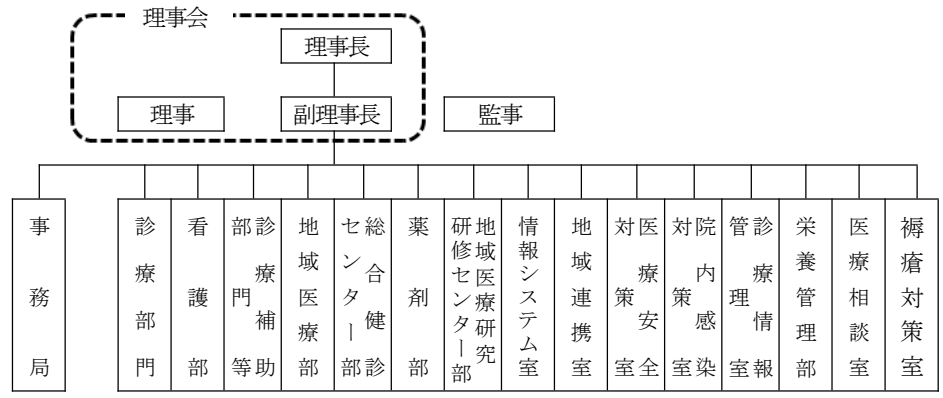
(2) 所在地
岐阜県下呂市森2211

(3) 設立年月日
平成22年4月1日

(4) 役員の状況 (平成30年4月1日現在)

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	山森 積雄
副理事長	常勤	鈴木 康
理事	非常勤	大塚 正義
理事	常勤	丹羽 誠
理事	常勤	細江 悟子
監事	非常勤	堀 雅博
監事	非常勤	井上 学

(5) 組織図



(6) 職員数 (平成30年4月1日現在)

職種	常勤	非常勤	計
医師	23名	※ 3名	26名
看護師	194名	20名	214名
コメディカル	64名	8名	72名
事務ほか	31名	63名	94名
計	312名	94名	406名

※ 医師2名はフルタイム非常勤

2 法人の基本的な目標

(1) 中期目標の前文

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院は、平成22年度の設立以降、県民が身近な地域でいつでも安心して良質な医療を享受できるように、地域の基幹病院として地域の医療水準の向上及び住民の健康増進に取り組んできた。

設立から平成26年度までの第1期中期目標期間中においては、理事長の強いリーダーシップの下、職員一丸となって診療機能の充実・強化を図り、免震機能及び屋上ヘリポートを備えた新病院建設や高度医療機器の導入など目標としてきた質の高い医療サービスの効果的な提供に努めたものの、経常収支比率100%の目標は未達成となった。

一方、医療を取り巻く環境は、社会保障・税一体改革大綱（平成24年2月17日閣議決定）において、急性期をはじめとする医療機能の強化、病院・病床機能の役割分担・連携の推進、在宅医療の充実などに取り組み、団塊世代が75歳以上となる平成37年に向けて医療提供体制の再構築や地域包括ケアシステムの構築を図ることとされている。

このため、第2期中期目標期間においては、これらの医療制度や社会経済情勢の変化に迅速に対応するとともに、第1期中期目標期間の経営面・運営面における実績等を踏まえ、さらなる自律性・機動性・透明性の高い病院運営に努め、飛騨地域の中核病院として、都市部の病院と同様に、県民が必要とする安全・安心・良質な医療を提供するとともに、地域の医療施設との間で病診連携を推進することで、飛騨地域全体の医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与していくことを強く求めるものである。

(2) その他法人の特徴として記載すべき事項

平成26年5月に新築移転した新病院の機能を活用し、飛騨南部地域における中核病院として、下記の役割を担う。

- ・ 地域医療の教育・研究（地域医療研究研修センターの機能）
- ・ へき地医療の提供と支援
- ・ 高度急性期医療の提供
- ・ 地域災害医療の提供
- ・ 終末期医療（入院・在宅）の提供
- ・ 医療従事者の確保
- ・ 地域医療機関等との連携

3 設置する病院の概要

(1) 病院名称

岐阜県立下呂温泉病院

(2) 所在地（平成26年5月1日から）

岐阜県下呂市森2211

(3) 沿革

昭和28年7月1日 岐阜県立下呂病院 開設

昭和35年5月4日 名称変更「岐阜県立下呂温泉病院」

平成26年5月1日 下呂市森へ新築移転

(4) その他(平成30年4月1日現在)

主な役割 及び機能	<input type="radio"/> へき地中核病院 <input type="radio"/> へき地医療拠点病院 <input type="radio"/> 救急告示病院 <input type="radio"/> 病院群輪番制病院 <input type="radio"/> 臨床研修指定病院
診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、内分泌内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、胸部外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科、救急科
許可病床数	一般病床 206床
看護体制	7対1（地域包括ケア病棟及び回復期病棟については、13対1）
年間延患者数 (H30実績)	入院 57,711名 外来 87,590名

建物面積	19,594㎡
理念	地域の中核病院「へき地医療の拠点病院」として“生活の場の医療”を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指します。
基本方針	1. 病める人の権利を擁護し適切な医療を行います。 2. より質の高い医療の提供に努めます。 3. 患者・住民サービスの向上に努めます。 4. へき地医療の拠点病院として地域医療の充実を図ります。 5. 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図ります。 6. 健全な経営に努めます。

Ⅱ 全体的な状況

1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

1-1 診療事業

多様な手段の積極的活用による医師確保の取り組みにより、平成30年度は常勤医2名（整形外科医、耳鼻咽喉科医）、非常勤医師1名（産婦人科医）、臨床研修医2名を確保することができた。

また、職員の資格取得の促進・専門研修参加への支援、医療安全・院内感染防止対策の確立などにより、飛騨地域の基幹病院として、地域県民が必要とする医療の提供に努めた。

- ・ 急性期医療・政策医療の提供
- ・ 医療従事者の資質向上
- ・ 患者サービス、院内環境の快適性向上
- ・ 診療体制の充実
- ・ へき地医療の拠点機能の充実

1-2 調査研究事業

調査研究の推進、診療等で得られた情報の活用や保健医療情報を発信することで、県民の健康意識向上に努めるとともに、医療情報データベースの構築に寄与した。

- ・ マタニティエクササイズなどの公開教室の開催
- ・ 病院広報誌による保健医療情報の提供
- ・ 院内活動に関して病院ホームページでの情報提供
- ・ NCD、院内がん登録など医療情報データベースへのデータ提供

1-3 教育研修事業

平成29年度に受け入れた臨床研修医1名について、当院の常勤医師として採用することができた。また、令和元年度採用の臨床研修生2名について内定を行った。さらに、岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センター等の臨床研修医に係る研修協力施設として、「地域医療研修（1ヶ月）」の受入れを行い、医師の養成に努めた。

さらに、下呂看護専門学校の見習看護学生や下呂市消防本部の救急救命士などの地域医療従事者の実習受入れを行い、教育・研修の充実を図った。

1-4 地域支援事業

地域医療機関や在宅医療への支援として、以下の事業に取り組み、地域支援に努めた。

- ・ 東白川村国保診療所等への医師の派遣による人的支援
- ・ 地域開業医等の当院医療機器の共同利用の推進
- ・ 褥瘡対策出張講座
- ・ 下呂地域認知機能低下研究会による「認知症早期発見のための下呂式簡易知能検査」や「予防リハビリ」の検討、及びその手法と有効性について試行、検証

1-5 災害等発生時における医療救護

医療救護活動の拠点機能を担うため、災害発生時に備えて体制の充実、訓練を実施した。

- ・ 業務継続計画（BCP）策定部会（4回）での議論や各種セミナーへの参加を通じて、BCPのブラッシュアップを図った。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

人員の弾力的配置と地方独立行政法人のメリットを活かした人材確保により、看護体制の確保を図るとともに、業務運営の見直しや効率化・費用節減の徹底として、医療機器保守点検料の見直し（スポット契約等）を引き続き行い、収支改善に努めた。

また、経営効率の高い業務執行体制の確立のため、職員と管理者との意見交換会開催による風通しの良い組織運営と、経営情報の共有による職員の経営意識の向上を図ることができた。

未収金対策として、電話や臨宅による催告、分納制度を活用するなどして回収に努めた。

また、各種システムの活用により重複購入・期限切れによる廃棄物品の削減など適正在庫の実現と在庫圧縮に努めることで費用節減を図ったほか、より安価な物品の発掘に努め、医療現場、各委員会ですれらの採用を諮り、積極的に類似物品の切り替えを実施するなど、材料費の削減に努めた。

3 予算、収支計画及び資金計画（財務内容の改善に関する事項）

収支計画のうち収益の部については、昨年度に比較して営業収益で約7千9百万円の増額などにより、収益の部全体で約4億4千3百万円、約1億5百万円の増額となった。（年度計画に対しては約1億2千7百万円の減額）

一方、費用の部については、昨年度と比較して営業費用で約7千3百万円の増額、営業外費用で約1千6百万円の減額、臨時損失で約1億4千8百万円の増額となり、費用の部全体で約5億4千5百万円、約2億6百万円余の増額となった。（年度計画に対しては約3千6百万円の増額）

この結果、高山労働基準監督署からの是正勧告への対応として、時間外勤務手当等の追給約1億4千8百万円を臨時損失として計上したこともあり、前年度と比較して約1億1百万円悪化し、約6億2百万円の純損失となった。（年度計画では4億3千9百万円の純損失）

また、経常収支比率は、収支計画91.2%に対して、決算では90.7%（昨年度より1.1ポイント改善）、業収収支比率は、収支計画94.5%に対し、決算では93.4%（昨年度0.3ポイント改善）と、職員給与費対業収収支比率は、収支計画80.1%に対し、決算では83.4%と、計画を下回ることとなった。

来期以降も中期計画で定める経常収支比率100%以上、職員給与費対業収収支比率60%以下、業収収支比率100%以上を目指し、継続して経営努力を行っていく。

4 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

就労環境の向上

職員の就労環境の向上のため、院内保育所の体制強化、人間ドック事業・定期健診の院内実施・健康管理セミナー開催などの健康管理対策を実施した。

平成27年度に締結したユニオンショップ協定を機に、労使による適正な労働環境の向上に引き続き努めた。

また、時間外勤務の事前命令・事後確認の徹底、電子カルテアクセスログ等の適正管理に加え、事務局にタイムカードを試験導入し、時間外勤務等の適正化を図った。

医療機器整備

医療機器の整備については、導入時期、費用対効果等を勘案し、計画的な整備に努めた。懸案であったガンマカメラの更新については、補助金の活用により購入ができ、医療の充実を図ることができた。

法人が負担する債務の償還に関する事項

法人が負担する債務の償還については、岐阜県に対する債務の償還を確実に実施した。

Ⅲ 自己評価結果一覧表

項目	項目番号	自己評価	検証結果
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組			
1-1 診療事業			
1-1-1 より質の高い医療の提供	01	Ⅲ	
1-1-2 患者・住民サービスの向上	02	Ⅲ	
1-1-3 診療体制の充実	03	Ⅲ	
1-1-4 近隣の医療機関等との役割分担及び連携	04	Ⅲ	
1-1-5 重点的に取り組む医療	05	Ⅳ	
1-2 調査研究事業			
1-2-1 調査及び臨床研究等の推進	06	Ⅲ	
1-2-2 診療情報等の活用	07	Ⅲ	
1-3 教育研修事業			
1-3-1 医師の卒後臨床研修等の充実	08	Ⅲ	
1-3-2 医師・看護師・コメディカルを目指す学生、救急救命士等に対する教育の実施	09	Ⅲ	
1-4 地域支援事業			
1-4-1 地域医療への支援	10	Ⅲ	
1-4-2 社会的な要請への協力	11	Ⅲ	
1-4-3 保健医療情報の提供・発信	12	Ⅲ	
1-5 災害等発生時における医療救護			
1-5-1 医療救護活動の拠点機能の充実	13	Ⅲ	
1-5-2 被災時における病院機能維持のための準備体制の確立	14	Ⅲ	
1-5-3 新型インフルエンザ等発生時における役割の発揮	15	Ⅲ	

項目	項目番号	自己評価	検証結果
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組			
2-1 効率的な業務運営体制の確立			
2-1-1 効果的な組織体制の確立	16	Ⅲ	
2-1-2 診療体制及び人員配置の弾力的運用	17	Ⅲ	
2-1-3 人事評価システムの構築	18	Ⅲ	
2-1-4 事務部門の専門性の向上	19	Ⅲ	
2-1-5 コンプライアンスの徹底	20	Ⅲ	
2-1-6 適切な情報管理	21	Ⅲ	
2-2 業務運営の見直しや効率化による収支改善			
2-2-1 多様な契約手法の導入	22	Ⅳ	
2-2-2 収入の確保	23	Ⅲ	
2-2-3 費用の削減	24	Ⅲ	
3 予算(人件費の見積含む。)、収支計画及び資金計画	25	Ⅱ	
4 短期借入金の限度額			
5 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画			
6 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画			
7 剰余金の使途			
8 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項			
8-1 職員の就労環境の向上	26	Ⅲ	
8-2 岐阜県及び他の地方独立行政法人との連携に関する事項	27	Ⅲ	
8-3 施設・医療機器の整備に関する事項	28	Ⅲ	
8-4 法人が負担する債務の償還に関する事項	29	Ⅲ	

IV 財務情報及び人員に関する情報

指標	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
経常収益 (千円)	4,109,551	4,202,828	4,337,756	4,443,100	—
経常費用 (千円)	4,746,120	4,812,193	4,839,411	5,045,588	—
経常利益 (千円)	▲636,569	▲609,365	▲501,655	▲602,488	—
従事人員数 (人)	375	388	395	406	—

V 項目別の状況

主な指標								
指標	達成目標 (中期目標・中期計画)	(参考) 前中期目標最終年度値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
			経常収支比率	100 %以上	81.6 %	86.6 %	87.4 %	89.6 %
医業収支比率	100 %以上	—	90.6 %	90.8 %	93.1 %	93.4 %	—	
職員給与費対医業収益比率	60 %以下	83.3 %	80.9 %	82.9 %	80.6 %	83.4 %	—	

1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

中期 目標	<p>1-1 診療事業 飛騨地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする医療を提供することを求める。</p> <p>※ より質の高い医療の提供 法人が有する医師、看護師、コメディカル等や、先進かつ高度な医療機器といった人的・物的資源を有効に活用し、高度で専門的な医療に取り組むことで、県内医療水準の向上に努めること。 特に、医師、看護師、コメディカル等の優秀な医療スタッフの確保や各職種の専門性の向上を図るための教育研修の充実に努め、提供する医療水準の維持・向上を図ること。 また、個々の患者に最適な医療を選択し、より質の高い医療を提供するため、科学的な根拠に基づく医療の推進、クリニカルパスの推進、チーム医療体制の充実、メディカカードの導入などITの活用にも努めること。 さらに、医療事故を未然に防ぎ、患者が安心して治療に専念できる安全・安心な医療と治療環境を提供できるよう、院内感染対策など医療安全対策を徹底すること。</p> <p>※ 患者・住民サービスの向上 来院から診察、検査、会計等に至る全てのサービスの待ち時間の改善、快適性及びプライバシー確保に配慮した院内環境の充実、インフォームドコンセントの徹底、セカンドオピニオンの推進、医療に関する相談体制の充実など、病院が提供する全てのサービスについて患者の利便性の向上に努めること。 また、病院運営に関し、患者のみならず地域住民の意見を取り入れ、患者・住民サービスの向上を図ること。</p> <p>※ 診療体制の充実 医療需要の質的・量的な変化や新たな医療課題に適切に対応するため、患者動向や医療需要の変化に即して診療部門の充実若しくは見直し又は専門外来の設置若しくは充実など診療体制の整備・充実を図ること。</p> <p>※ 近隣の医療機関等との役割分担及び連携 近隣の医療機関等との役割分担を明確にし、病院・病床機能の分化・強化を図るとともに、地域連携クリティカルパスの活用など地域の医療機関との連携を充実・強化し、地域の実情に応じて飛騨地域の基幹病院としての機能を引き続き発揮し、県民が求める医療を提供すること。 また、救急医療コミュニティシステムを利用した医療画像等の患者情報の共有など他の医療機関との連携による医療提供の促進を図ること。 さらに、円滑に在宅医療・療養へ移行するため、他の機関との連携を充実・強化し、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供の促進を図ること。</p> <p>※ 重点的に取り組む医療 高度・先進医療、急性期医療及び政策医療といった他の医療機関においては実施が困難ではあるものの県民が必要とする医療を重点的に実施すること。 特に、専門的なりハビリ治療の実施など、予防から治療・回復に至る一貫した高度・専門的な医療の提供に加え、へき地医療の拠点病院として診療所への医療支援、高齢人口が多い地域性を踏まえた診療科機能の充実及び在宅療養支援の充実を図ること。 また、第2次救急告示病院としての役割を維持すること。</p>
----------	---

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																			
01	<p>※ より質の高い医療の提供</p> <p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p>	<p>1 高度医療機器の計画的な更新・整備 高額な機器については、補助金等の活用を図ることを更新・整備の条件としている。 平成30年度は補助金の活用により、核医学診断検査装置（ガンマカメラ）を更新した。</p> <p>更新・整備を行った高額医療機器（予定価格2,000万円以上）の稼働件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>整備年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡ビデオシステム</td> <td>H25</td> <td>1,664</td> <td>1,691</td> <td>1,727</td> </tr> <tr> <td>X-TV 透視診断装置</td> <td>H25</td> <td>343</td> <td>350</td> <td>447</td> </tr> <tr> <td>MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T）</td> <td>H25</td> <td>3,050</td> <td>3,341</td> <td>3,070</td> </tr> <tr> <td>手術用顕微鏡システム</td> <td>H28</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>内視鏡ビデオシステム</td> <td>H29</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>ガンマカメラ</td> <td>H30</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H26～27 高額医療機器の整備実績なし ※手術用顕微鏡システム（H28）は、H29.1～3月までの稼働実績 ※内視鏡ビデオシステム（H29）は、H30.3月のみの稼働実績 ※ガンマカメラ（H30）は、H31.2～3月までの稼働実績</p> <p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 ○ 医師の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は常勤医2名（整形外科医、耳鼻咽喉科医）、非常勤医師1名（産婦人科医）、臨床研修医2名を確保することができた。 医師募集エージェントへの登録（インターネット等の活用） 昨年度に引き続き募集情報を登録 5社 （うち1社：採用情報提供サービスに係る有料契約を締結） 常勤医不在の診療科（小児科、泌尿器科、眼科）及び常勤医不足の診療科については、岐阜大学病院・岐阜県総合医療センター等からの支援医師（非常勤）により、診療体制を確保し、地域の県民ニーズに対応した医療の推進を図った。 	機器名	整備年度	28年度	29年度	30年度	内視鏡ビデオシステム	H25	1,664	1,691	1,727	X-TV 透視診断装置	H25	343	350	447	MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T）	H25	3,050	3,341	3,070	手術用顕微鏡システム	H28	3	6	3	内視鏡ビデオシステム	H29	—	21	234	ガンマカメラ	H30	—	—	26		III	<p>医師の確保（常勤医師2名、非常勤医師1名、臨床研修医2名、）、PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）の導入、インシデント・アクシデント報告の分析と情報共有の進展、医療安全管理に関する各種研修会への参加者の増、及び院内感染防止マニュアルの改訂や感染管理教育の充実については評価できるが、項目全体としては、平年並みの実績と評価。</p>
機器名	整備年度	28年度	29年度	30年度																																				
内視鏡ビデオシステム	H25	1,664	1,691	1,727																																				
X-TV 透視診断装置	H25	343	350	447																																				
MRI（超伝導磁気共鳴画像診断装置 1.5T）	H25	3,050	3,341	3,070																																				
手術用顕微鏡システム	H28	3	6	3																																				
内視鏡ビデオシステム	H29	—	21	234																																				
ガンマカメラ	H30	—	—	26																																				

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																								
		<p>診療依頼延べ回数</p> <table border="1" data-bbox="580 284 1039 352"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,717 回</td> <td>1,222 回</td> <td>1,708 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 看護師負担の軽減と看護体制維持に必要な看護師数の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護部において、ワークライフバランス（WLB：仕事とプライベートのバランスをとれるようにする取り組み）を推進した。業務改善や前残業を減らす活動（職員への呼びかけ）をした結果、前残業は前年度と比較し46%減少した。 退職後の看護師が中心となって患者搬送を行う「ポーター制度」を引き続き実施した。平成30年度は患者搬送に加えて、外来支援も定期的に行える支援体制を整備した。 看護の質の向上と拘束時間の短縮を目的に、新たな看護方式「PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）」を全ての病棟へ導入し、PNSの定着を図った。また、監査員による評価を1病棟に行い、PNSの課題の洗い出しを行った。 WLB推進事業委員会を毎月開催し、院内誌「かえる通信」を通じて、職員紹介、職員紹介、福利厚生等の情報を提供した。 法人化のメリットである弾力的な職員採用（随時募集・年2回の就職試験）を行い、看護体制の維持に必要な看護師・看護補助者等を確保した。（非常勤看護師1名、業務補助看護師1名、非常勤看護補助者1名） 再就職支援者研修を2回計画したが、参加はなかった。 県看護協会・県ナースセンターが主催する看護職員等就業促進研修事業への参加、院内ポスターの掲示、下呂市が発行する機関誌への掲載などにより、引き続き看護師の再就職を支援する。(●) 大垣女子短期大学看護学科24名のガイダンスを受け入れた。 <p>看護師等に係る採用活動の実績</p> <table border="1" data-bbox="580 1273 1155 1410"> <thead> <tr> <th colspan="2">職種別</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">常勤</td> <td>看護師</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	28 年度	29 年度	30 年度	1,717 回	1,222 回	1,708 回	職種別		28 年度	29 年度	30 年度	常勤	看護師	12	14	9	助産師	-	-	1	保健師	-	-	-			
28 年度	29 年度	30 年度																											
1,717 回	1,222 回	1,708 回																											
職種別		28 年度	29 年度	30 年度																									
常勤	看護師	12	14	9																									
	助産師	-	-	1																									
	保健師	-	-	-																									

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																													
	<p>3 大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成</p>	<table border="1" data-bbox="584 252 1155 389"> <tr> <td rowspan="4">非常勤</td> <td>(専門業務) 看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(業務補助) 看護師</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(専門業務) 看護補助者</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(業務補助) 看護補助者</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>※各年度4月1日採用者は、前年度の採用状況に含む。</p> <p>○ コメディカル等の医療従事者の確保 より質の高い医療の提供に必要なコメディカル、医師事務作業補助者の確保に取り組んでいる。薬剤師の確保については、随時募集の実施や大学へのPRを行っているが、欠員(1人)が充足できない状態が続いている。今後も引き続き薬剤師の確保に取り組む。</p> <p>(●)</p> <p>コメディカル(常勤)採用活動の実績</p> <table border="1" data-bbox="584 703 1068 1015"> <thead> <tr> <th>職種別</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度4月1日採用者は、前年度の採用状況に含む。</p> <p>医師事務作業補助者採用活動の実績</p> <table border="1" data-bbox="584 1115 1149 1217"> <thead> <tr> <th>職種別</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(専門業務) 医師事務作業補助者</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度4月1日採用者は、前年度の採用状況に含む。</p>	非常勤	(専門業務) 看護師	1	1	5	(業務補助) 看護師	1	-	1	(専門業務) 看護補助者	-	-	-	(業務補助) 看護補助者	2	2	1	職種別	28年度	29年度	30年度	薬剤師	0	0	0	臨床検査技師	1	2	1	臨床工学技士	0	0	1	診療放射線技師	0	1	2	理学療法士	2	2	2	言語聴覚士	0	2	0	管理栄養士	0	1	0	社会福祉士	2	0	1	職種別	28年度	29年度	30年度	(専門業務) 医師事務作業補助者	1	2	0	<p>3 大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成 協力型の臨床研修病院として、臨床研修プログラムで設定されている「地域医療研修(1ヶ月)」について他病院の臨床研修医の受入れを行った。</p>		
非常勤	(専門業務) 看護師	1		1	5																																																													
	(業務補助) 看護師	1		-	1																																																													
	(専門業務) 看護補助者	-		-	-																																																													
	(業務補助) 看護補助者	2	2	1																																																														
職種別	28年度	29年度	30年度																																																															
薬剤師	0	0	0																																																															
臨床検査技師	1	2	1																																																															
臨床工学技士	0	0	1																																																															
診療放射線技師	0	1	2																																																															
理学療法士	2	2	2																																																															
言語聴覚士	0	2	0																																																															
管理栄養士	0	1	0																																																															
社会福祉士	2	0	1																																																															
職種別	28年度	29年度	30年度																																																															
(専門業務) 医師事務作業補助者	1	2	0																																																															

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																								
	4 認定看護師等看護の専門性を 高める資格取得の促進		<p>臨床研修医の受入状況</p> <table border="1" data-bbox="1236 304 1778 512"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岐阜大学医学部附属病院</td> <td>5 名</td> <td>4 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>岐阜県総合医療センター</td> <td>3 名</td> <td>5 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>岐阜市民病院</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9 名</td> <td>10 名</td> <td>10 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※歯科を含む。</p> <p>4 認定看護師等看護の専門性を高める資格取得の促進</p> <p>○ 認定看護師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファーストレベル 2名修了 ・ セカンドレベル 1名修了 ・ 皮膚排泄ケア認定看護師教育課程 1名修了 ・ 認知症認定看護師養成講習 1名参加 <p>○ 「新人看護職員教育研修」に従事する職員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育担当者研修 1名 ・ 実地指導者研修 1名 <p>○ その他の専門研修参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護補助者活用推進研修 2名 ・ 災害対策に関する研修 7名 ・ 認知症ケア加算2研修 10名 ・ 重症度医療看護必要度指導者研修 9名 ・ 新生児蘇生法専門コースAコース 1名 ・ フットケア加算対応研修 1名 <p>認定看護師・認定看護管理者数（各年度末時点）</p> <table border="1" data-bbox="1236 1201 1729 1436"> <thead> <tr> <th>分 野</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>皮膚排泄ケア</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>1 名</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>脳卒中リハビリ テーション</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	28 年度	29 年度	30 年度	岐阜大学医学部附属病院	5 名	4 名	2 名	岐阜県総合医療センター	3 名	5 名	4 名	岐阜市民病院	1 名	1 名	4 名	計	9 名	10 名	10 名	分 野	28 年度	29 年度	30 年度	皮膚排泄ケア	1 名	1 名	1 名	感染管理	1 名	2 名	2 名	脳卒中リハビリ テーション	1 名	1 名	1 名	緩和ケア	1 名	1 名	1 名		
病院名	28 年度	29 年度	30 年度																																										
岐阜大学医学部附属病院	5 名	4 名	2 名																																										
岐阜県総合医療センター	3 名	5 名	4 名																																										
岐阜市民病院	1 名	1 名	4 名																																										
計	9 名	10 名	10 名																																										
分 野	28 年度	29 年度	30 年度																																										
皮膚排泄ケア	1 名	1 名	1 名																																										
感染管理	1 名	2 名	2 名																																										
脳卒中リハビリ テーション	1 名	1 名	1 名																																										
緩和ケア	1 名	1 名	1 名																																										

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																												
	<p>5 コメディカルに対する専門研修の実施</p> <p>6 EBMの推進</p>		<table border="1" data-bbox="1238 252 1731 376"> <tr> <td>摂食・嚥下</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6 名</td> <td>7 名</td> <td>7 名</td> </tr> </table> <p>今後、認定看護師養成過程と特定看護師養成過程の統合が検討されているため、状況を見ながら研修計画を立てていく。</p> <p>○ eラーニング(Electronic Learning)による研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人あたり個人視聴講義数 6.2 講義 平均視聴時間 4 時間 48 分 集合研修 21 回 集合研修参加者 216 名 推奨研修 8 講義 受講率 75.4% <p>5 コメディカルに対する専門研修の実施 コメディカルの研修会、学会への参加に対して経費的支援を行い、専門技術・技能の向上を図った。</p> <p>○ コメディカルの研修会・学会参加人数</p> <table border="1" data-bbox="1247 914 1740 1198"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>6 名</td> <td>7 名</td> <td>6 名</td> </tr> <tr> <td>検査技師</td> <td>12 名</td> <td>11 名</td> <td>13 名</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>5 名</td> <td>6 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>19 名</td> <td>14 名</td> <td>15 名</td> </tr> <tr> <td>リハビリ技師</td> <td>8 名</td> <td>13 名</td> <td>10 名</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>3 名</td> <td>4 名</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>53 名</td> <td>55 名</td> <td>54 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 EBMの推進 短期派遣医が増え、標準化が難しく、クリニカルパスの作成に至らなかった。DPCデータの活用を行うことで、診療支援及び安全管理への活用を図り、医療水準の向上に役立てていく。</p>	摂食・嚥下	1 名	1 名	1 名	認定看護管理者	1 名	1 名	1 名	計	6 名	7 名	7 名	職種	28 年度	29 年度	30 年度	薬剤師	6 名	7 名	6 名	検査技師	12 名	11 名	13 名	臨床工学技士	5 名	6 名	7 名	放射線技師	19 名	14 名	15 名	リハビリ技師	8 名	13 名	10 名	管理栄養士	3 名	4 名	3 名	計	53 名	55 名	54 名		
摂食・嚥下	1 名	1 名	1 名																																														
認定看護管理者	1 名	1 名	1 名																																														
計	6 名	7 名	7 名																																														
職種	28 年度	29 年度	30 年度																																														
薬剤師	6 名	7 名	6 名																																														
検査技師	12 名	11 名	13 名																																														
臨床工学技士	5 名	6 名	7 名																																														
放射線技師	19 名	14 名	15 名																																														
リハビリ技師	8 名	13 名	10 名																																														
管理栄養士	3 名	4 名	3 名																																														
計	53 名	55 名	54 名																																														

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																																																											
	7 専門性を発揮したチーム医療の推進		<p>クリニカルパス種類数・使用数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">内科</td> <td>種類数</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td>54</td> <td>36</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">産婦人科</td> <td>種類数</td> <td>23</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td>169</td> <td>167</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td>98.8</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">小児科</td> <td>種類数</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td>126</td> <td>140</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td>99.2</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>7 専門性を発揮したチーム医療の推進 各部署から業務改善計画書の提出(計 17 事例)があった。類似のインシデントが発生した場合、業務改善策を評価し直し、再度実施する PDCA サイクルを回すことで更なる業務改善に繋げた。また重大なインシデント分析をするにあたっては、他職種連携を図り、専門的な視点から分析することで、より安全なチーム医療を推し進めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">委員会等名称</th> <th colspan="3">実施回数</th> </tr> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全管理委員会</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>医療安全対策室会議</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>看護事故防止委員会</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>院内感染防止対策委員会</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>感染対策室会議</td> <td>28</td> <td>31</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策委員会</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	区分		28 年度	29 年度	30 年度	内科	種類数	4	3	3	使用数	54	36	48	適用率	100.0	100.0	100.0	産婦人科	種類数	23	10	13	使用数	169	167	119	適用率	98.8	100.0	100.0	小児科	種類数	22	14	15	使用数	126	140	89	適用率	99.2	100.0	100.0	委員会等名称	実施回数			28 年度	29 年度	30 年度	医療安全管理委員会	12	12	12	医療安全対策室会議	39	45	86	看護事故防止委員会	12	12	12	院内感染防止対策委員会	12	12	12	感染対策室会議	28	31	32	褥瘡対策委員会	11	11	12		
区分		28 年度	29 年度	30 年度																																																																												
内科	種類数	4	3	3																																																																												
	使用数	54	36	48																																																																												
	適用率	100.0	100.0	100.0																																																																												
産婦人科	種類数	23	10	13																																																																												
	使用数	169	167	119																																																																												
	適用率	98.8	100.0	100.0																																																																												
小児科	種類数	22	14	15																																																																												
	使用数	126	140	89																																																																												
	適用率	99.2	100.0	100.0																																																																												
委員会等名称	実施回数																																																																															
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
医療安全管理委員会	12	12	12																																																																													
医療安全対策室会議	39	45	86																																																																													
看護事故防止委員会	12	12	12																																																																													
院内感染防止対策委員会	12	12	12																																																																													
感染対策室会議	28	31	32																																																																													
褥瘡対策委員会	11	11	12																																																																													
	8 メディカカードの導入などの I T の活用		<p>8 メディカカードの導入などの I T の活用 I C カード化した診察券と既に先行導入されているメディカカードとの共通化について、運用上の課題を検討した。</p>																																																																													

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																																																														
9	医療安全対策の充実	<p>9 医療安全対策の充実</p> <p>○ インシデント・アクシデント報告の分析及び改善方策の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメントシステム (Safe Producer) を利用し、毎月のインシデント・アクシデントのまとめとインシデントレベル2 及び3 (事故報告書) について各会議にて分析・検討し対策立案を行った。また、分析結果及び改善方策について、医療総合情報システムにより情報の共有化を図った。 平成30 年度から医療安全対策地域連携加算1 の算定に伴い、病院間で連携し、相互チェックを開始した。この中で医療事故防止の討議を行い、医療安全対策の充実を図った。 <p>インシデント・アクシデント件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インシデント</td> <td>1,381 件</td> <td>1,727 件</td> <td>1,591 件</td> </tr> <tr> <td>アクシデント</td> <td>11 件</td> <td>13 件</td> <td>15 件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,392 件</td> <td>1,740 件</td> <td>1,606 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 医療安全管理に関する研修体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30 年度も引き続き、院内全職員を対象にした医療安全推進大会を実施した。平成30 年度は外部講師を招き情報セキュリティをテーマに研修を実施し、職員の情報セキュリティ向上を図った。 <p>加えて、医療安全推進大会で、インシデント0 レベルで医療事故を未然に防いだ事例を表彰することにより、インシデント0 レベル報告の重要性を職員に意識づけることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">研修名</th> <th colspan="6">回数・参加人数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">28 年度</th> <th colspan="2">29 年度</th> <th colspan="2">30 年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>人数</th> <th>回数</th> <th>人数</th> <th>回数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全全職員研修会</td> <td>2</td> <td>662</td> <td>2</td> <td>715</td> <td>2</td> <td>750</td> </tr> <tr> <td>医療機器学習会</td> <td>4</td> <td>49</td> <td>3</td> <td>71</td> <td>3</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>薬剤学習会</td> <td>4</td> <td>85</td> <td>5</td> <td>101</td> <td>3</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>検査学習会</td> <td>2</td> <td>51</td> <td>2</td> <td>26</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>臨時研修会</td> <td>3</td> <td>43</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>新人研修</td> <td>7</td> <td>61</td> <td>7</td> <td>111</td> <td>8</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28 年度	29 年度	30 年度	インシデント	1,381 件	1,727 件	1,591 件	アクシデント	11 件	13 件	15 件	計	1,392 件	1,740 件	1,606 件	研修名	回数・参加人数						28 年度		29 年度		30 年度			回数	人数	回数	人数	回数	人数	医療安全全職員研修会	2	662	2	715	2	750	医療機器学習会	4	49	3	71	3	38	薬剤学習会	4	85	5	101	3	64	検査学習会	2	51	2	26	1	11	臨時研修会	3	43	0	0	0	0	新人研修	7	61	7	111	8	122			
区分	28 年度	29 年度	30 年度																																																																																
インシデント	1,381 件	1,727 件	1,591 件																																																																																
アクシデント	11 件	13 件	15 件																																																																																
計	1,392 件	1,740 件	1,606 件																																																																																
研修名	回数・参加人数																																																																																		
	28 年度		29 年度		30 年度																																																																														
	回数	人数	回数	人数	回数	人数																																																																													
医療安全全職員研修会	2	662	2	715	2	750																																																																													
医療機器学習会	4	49	3	71	3	38																																																																													
薬剤学習会	4	85	5	101	3	64																																																																													
検査学習会	2	51	2	26	1	11																																																																													
臨時研修会	3	43	0	0	0	0																																																																													
新人研修	7	61	7	111	8	122																																																																													

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																									
	10 院内感染防止対策の確立	<table border="1"> <tr> <td>看護補助者対象 研修会</td> <td>4</td> <td>116</td> <td>4</td> <td>36</td> <td>2</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>BLS研修会</td> <td>11</td> <td>300</td> <td>1</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>10 院内感染防止対策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内感染防止マニュアルの整備・周知 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染防止に関するマニュアル「カテーテル関連尿路感染防止マニュアル」の新設や、感染症に基づく医師の届出を改訂した。 ○ 感染管理教育の実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新入転入職員研修</td> <td>4 回</td> <td>3 回 (標準予防策、感染経路別予防策、職業感染対策)</td> </tr> <tr> <td>全体研修会</td> <td>16 回、延べ 559 名 ①インフルエンザアウトブレイク 347 名 ②手袋の適正使用について 150 名 ③流行シーズン前勉強会 5 回、33 名 ④外来看護師対象 PPE (個人防護具) 着脱訓練 7 回、25 名 ⑤薬剤部研修生リエンション 2 回、4 名</td> <td>14 回、延べ 1,451 名 ①感染対策研修 (医療器材の洗浄・消毒・滅菌: 354 名、感染症法とその利用 353 名) ②抗菌薬適正使用 (当院の細菌検出状況: 355 名、効果的な抗菌薬の使い方 361 名) ③WEB研修 CD感染症 28 名</td> </tr> <tr> <td>グループウェアを利用した情報発信</td> <td>・ミニクチャー等感染対策情報: 15 回 ・岐阜県感染症発生動向調査週報: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日</td> <td>・ミニクチャー: 3 回 ・感染対策室NEWS: 2 回 ・岐阜県感染症発生動向調査他: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日</td> </tr> </tbody> </table> 	看護補助者対象 研修会	4	116	4	36	2	28	BLS研修会	11	300	1	13	1	9		29 年度	30 年度	新入転入職員研修	4 回	3 回 (標準予防策、感染経路別予防策、職業感染対策)	全体研修会	16 回、延べ 559 名 ①インフルエンザアウトブレイク 347 名 ②手袋の適正使用について 150 名 ③流行シーズン前勉強会 5 回、33 名 ④外来看護師対象 PPE (個人防護具) 着脱訓練 7 回、25 名 ⑤薬剤部研修生リエンション 2 回、4 名	14 回、延べ 1,451 名 ①感染対策研修 (医療器材の洗浄・消毒・滅菌: 354 名、感染症法とその利用 353 名) ②抗菌薬適正使用 (当院の細菌検出状況: 355 名、効果的な抗菌薬の使い方 361 名) ③WEB研修 CD感染症 28 名	グループウェアを利用した情報発信	・ミニクチャー等感染対策情報: 15 回 ・岐阜県感染症発生動向調査週報: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日	・ミニクチャー: 3 回 ・感染対策室NEWS: 2 回 ・岐阜県感染症発生動向調査他: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日		
看護補助者対象 研修会	4	116	4	36	2	28																								
BLS研修会	11	300	1	13	1	9																								
	29 年度	30 年度																												
新入転入職員研修	4 回	3 回 (標準予防策、感染経路別予防策、職業感染対策)																												
全体研修会	16 回、延べ 559 名 ①インフルエンザアウトブレイク 347 名 ②手袋の適正使用について 150 名 ③流行シーズン前勉強会 5 回、33 名 ④外来看護師対象 PPE (個人防護具) 着脱訓練 7 回、25 名 ⑤薬剤部研修生リエンション 2 回、4 名	14 回、延べ 1,451 名 ①感染対策研修 (医療器材の洗浄・消毒・滅菌: 354 名、感染症法とその利用 353 名) ②抗菌薬適正使用 (当院の細菌検出状況: 355 名、効果的な抗菌薬の使い方 361 名) ③WEB研修 CD感染症 28 名																												
グループウェアを利用した情報発信	・ミニクチャー等感染対策情報: 15 回 ・岐阜県感染症発生動向調査週報: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日	・ミニクチャー: 3 回 ・感染対策室NEWS: 2 回 ・岐阜県感染症発生動向調査他: 毎週 1 回 ・インフルエンザ流行状況: 流行期間中毎日																												

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																											
		<ul style="list-style-type: none"> ○ ラウンドによる感染対策実施状況のチェック <ul style="list-style-type: none"> ・ 手指衛生直接観察 ・ 部門別環境チェック（臨床検査部、薬剤部、中央放射線部、リハビリテーション部） ・ 月 1 回環境チェック（病棟、透析センター、外来） ・ 感染経路別予防策実施状況の確認 ・ インフルエンザ、ノロウイルス流行シーズン前の感染対策環境の確認 ・ 感染防止対策加算算定病院相互チェック受審 ○ 麻疹・手足口病・インフルエンザ・CD感染症の病院内・外の感染流行を受けて、情報共有と院内体制を確認した。 ○ 抗菌薬適正使用支援チームを立ち上げ、事例カンファレンスを開始した。 ○ 手指衛生直接観察の実施、手指衛生環境の整備により、手指衛生啓発を強化した。 																														
02	※ 患者・住民サービスの向上 1 待ち時間の改善等		<p>1 待ち時間の改善等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 待ち時間対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診察の遅れについては、できるだけ正確に診察の進行状況に係る情報を提供 ・ 看護師による待合室の巡視（患者の急変や気分不快等の早期発見に努める）と患者への積極的な声掛けの推進 ・ 椅子の配置を検討し、ゆったりと待つことのできる空間づくり ・ 小児科外来における図書コーナーでの、持ち帰り可能な雑誌等の設置 ・ 待ち時間の過ごし方を検討（初診の診察が混んでいる場合は一旦病院外へ出て良いことを説明し、ソファで待つ必要が無いように声かけ） ○ 外来診療待ち時間調査 <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">待ち時間 ・初診患者</th> <th colspan="2">28 年度</th> <th colspan="2">29 年度</th> <th colspan="2">30 年度</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>%</th> <th>人数</th> <th>%</th> <th>人数</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なし</td> <td>45</td> <td>50</td> <td>66</td> <td>81</td> <td>64</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>1～30 分</td> <td>39</td> <td>43</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> 	待ち時間 ・初診患者	28 年度		29 年度		30 年度		人数	%	人数	%	人数	%	なし	45	50	66	81	64	86	1～30 分	39	43	3	4	7	9	III	医療相談室の相談体制について、看護師の 1 名増（計 4 名）により、医療に関する相談体制の充実を図ったことについては評価できるが、項目全体としては、平年並みの実績と評価。
待ち時間 ・初診患者	28 年度		29 年度		30 年度																											
	人数	%	人数	%	人数	%																										
なし	45	50	66	81	64	86																										
1～30 分	39	43	3	4	7	9																										

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																																										
			<table border="1"> <tr> <td>31～60分</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>61分以上</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">待ち時間 ・再診患者</th> <th colspan="2">28 年度</th> <th colspan="2">29 年度</th> <th colspan="2">30 年度</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>%</th> <th>人数</th> <th>%</th> <th>人数</th> <th>%</th> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>180</td> <td>83</td> <td>197</td> <td>79</td> <td>243</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>1～30分</td> <td>28</td> <td>13</td> <td>35</td> <td>14</td> <td>30</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>31～60分</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>61分以上</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>2 院内環境の快適性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者サービス向上委員会では、ご意見箱からの意見等を院内の掲示板でフィードバックしている。そのほか院内環境改善について要望等を検討し、改善に努めた。 ○ 院内ラウンド実施回数：4回 主に院内環境面をチェックするラウンドを実施した。 【主な改善事項】傘立ての整理、掲示物の点検、除草等の要望、物品の整理整頓等 ○ 患者サービス向上委員会が主体となって、院内の清掃だけでなく、病院周辺の清掃も行った。 6月14日 17:30～18:00 74名 ○ 正面玄関に季節の飾り物を設置し、癒しの空間作りに努めた（七夕、月見、ハロウィン、クリスマス、正月、雛飾り）。 ○ 個別の栄養管理のため、医師の指示により「栄養管理計画書」を作成し、食事内容及び栄養補給量等について、栄養管理指導を行った。入院患者へ食事内容についての理解を促すと共に、必要に応じ患者の要望に応えた食事を提供した。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> <tr> <td colspan="2">計画書作成件数</td> <td>1,344 件</td> <td>1,558 件</td> <td>1,529 件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">個別 指導</td> <td>入院</td> <td>203 件</td> <td>268 件</td> <td>273 件</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>181 件</td> <td>206 件</td> <td>203 件</td> </tr> </table>	31～60分	5	5	7	9	1	1	61分以上	2	2	5	6	2	4	待ち時間 ・再診患者	28 年度		29 年度		30 年度		人数	%	人数	%	人数	%	なし	180	83	197	79	243	86	1～30分	28	13	35	14	30	11	31～60分	7	3	11	5	8	2	61分以上	1	1	5	2	1	1	区 分		28 年度	29 年度	30 年度	計画書作成件数		1,344 件	1,558 件	1,529 件	個別 指導	入院	203 件	268 件	273 件	外来	181 件	206 件	203 件		
31～60分	5	5	7	9	1	1																																																																									
61分以上	2	2	5	6	2	4																																																																									
待ち時間 ・再診患者	28 年度		29 年度		30 年度																																																																										
	人数	%	人数	%	人数	%																																																																									
なし	180	83	197	79	243	86																																																																									
1～30分	28	13	35	14	30	11																																																																									
31～60分	7	3	11	5	8	2																																																																									
61分以上	1	1	5	2	1	1																																																																									
区 分		28 年度	29 年度	30 年度																																																																											
計画書作成件数		1,344 件	1,558 件	1,529 件																																																																											
個別 指導	入院	203 件	268 件	273 件																																																																											
	外来	181 件	206 件	203 件																																																																											

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																											
3	医療に関する相談体制の充実	<p>3 医療に関する相談体制の充実</p> <p>○ 医療相談室には、社会福祉士 3 名、看護師 4 名 (対前年 1 名増) の計 7 名の職員が常駐しており、患者・家族からの医療情報に関する相談・苦情について対応した。</p> <p>問題事象への発展が懸念されるものは情報を速やかに幹部へ報告することを徹底し、組織として初期段階での対応が行えるように取り組んだ。</p> <p>相談件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療福祉相談</td> <td>4,439 件</td> <td>4,128 件</td> <td>3,896 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 接遇マナーの啓発活動の一環として啓蒙ポスターを作成し掲示した。また、平成 30 年 10 月に接遇マナーチェックを実施した。委託職員を含む 460 名に配布、99%の回収率であった。</p> <p>マナーチェック結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">「概ねできている」以上の回答割合</th> </tr> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>態度・表情等</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>身だしなみ</td> <td>95%</td> <td>95%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>電話対応</td> <td>84%</td> <td>85%</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※設問毎の平均割合</p>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	医療福祉相談	4,439 件	4,128 件	3,896 件	項目	「概ねできている」以上の回答割合			28 年度	29 年度	30 年度	態度・表情等	91%	93%	96%	身だしなみ	95%	95%	97%	電話対応	84%	85%	92%			
項目	28 年度	29 年度	30 年度																													
医療福祉相談	4,439 件	4,128 件	3,896 件																													
項目	「概ねできている」以上の回答割合																															
	28 年度	29 年度	30 年度																													
態度・表情等	91%	93%	96%																													
身だしなみ	95%	95%	97%																													
電話対応	84%	85%	92%																													
4	患者中心の医療の提供		<p>4 患者中心の医療の提供</p> <p>○ カルテ等の医療情報開示は、診療情報の提供に関する指針等に基づき対応した。</p> <p>カルテ開示請求件数・開示件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td> <td>7 件</td> <td>2 件</td> <td>7 件</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>7 件</td> <td>2 件</td> <td>6 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ ピンクリボンキャンペーン (乳がん検診の早期受診推進運動) への賛同</p> <p>マンモグラフィー(乳房X線診断装置)乳がん無料検診を実施した(平成 30 年 10 月 21 日)。平成 23 年度から経費の一部に寄付金を活用しており、検査料は無料(定員 30 名)。</p>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	請求件数	7 件	2 件	7 件	開示件数	7 件	2 件	6 件																	
項目	28 年度	29 年度	30 年度																													
請求件数	7 件	2 件	7 件																													
開示件数	7 件	2 件	6 件																													

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																												
	<p>5 インフォームドコンセントの徹底、セカンドオピニオンの推進</p> <p>6 患者や周辺住民からの病院運営に関する意見の反映</p>		<p>乳がん無料検診数</p> <table border="1" data-bbox="1234 312 1727 379"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27 名</td> <td>10 名</td> <td>21 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 30 年度に受診条件を緩和（「受診歴のある方は除外」を「直近 3 年間にピンクリボン運動による受診歴のある方は除外」へ変更）</p> <p>5 インフォームドコンセントの徹底、セカンドオピニオンの推進 患者・その家族には、インフォームドコンセントの徹底を図り、規程に基づく同意を得たうえで治療に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院時の入院治療計画の提示 手術や検査の事前説明 <p>セカンドオピニオン実施件数</p> <table border="1" data-bbox="1234 762 1749 866"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来受入</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>他院紹介</td> <td>1 件</td> <td>1 件</td> <td>1 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※セカンドオピニオン外来は標榜しておらず、一般外来として受け入れている。</p> <p>6 患者や周辺住民からの病院運営に関する意見の反映 各種アンケートの実施など様々な機会を捉え、患者等から意見を聴取し、これを基に対処策を講じた。</p> <p>○ 退院時アンケート調査を 11 月に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象患者数：退院 153 名、回答者 114 名（回収率 74.5%） <ul style="list-style-type: none"> <table border="1" data-bbox="1245 1257 1738 1422"> <thead> <tr> <th>アンケート項目</th> <th>「良い」以上の評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接遇面 態度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>接遇面 身だしなみ</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>診療面</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>サービス面</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table> 	28 年度	29 年度	30 年度	27 名	10 名	21 名	項目	28 年度	29 年度	30 年度	外来受入	—	—	—	他院紹介	1 件	1 件	1 件	アンケート項目	「良い」以上の評価割合	接遇面 態度	96%	接遇面 身だしなみ	97%	診療面	94%	サービス面	92%		
28 年度	29 年度	30 年度																															
27 名	10 名	21 名																															
項目	28 年度	29 年度	30 年度																														
外来受入	—	—	—																														
他院紹介	1 件	1 件	1 件																														
アンケート項目	「良い」以上の評価割合																																
接遇面 態度	96%																																
接遇面 身だしなみ	97%																																
診療面	94%																																
サービス面	92%																																

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
			<p>アンケートは概ね良い結果であったが、接遇面に関する苦情もあった。事例を一つ一つ丁寧に分析し改善に繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内に設置してある「ご意見箱」に投函された意見について、院内の掲示板でフィードバックするなど、患者サービス向上委員会が中心になり改善に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 御礼・感謝2件、苦情14件、要望6件、計22件 ○ 病院周辺道路の整備要望 来院者の安全確保を図るため、病院周辺道路の整備を国土交通省（高山国道事務所）や下呂市に要望し、舗装の補修等の実施につなげた。 ○ 地域住民との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「看護の日」等を活用し、患者やその家族・外来受診者を対象に健康チェック・健康相談を行い、地域の人々との交流に努めた。 平成30年10月12日：43名 ・ 下呂温泉祭り行事協力 「いで湯卓球大会」4月20・21日：各1名 「龍神火祭り、花火等」8月1日～3日救護班：計8名 ・ 病院運営協議会（実施日：平成30年12月5日） 昨年度に引き続き、地域の代表者等を構成員とする「下呂温泉病院運営協議会」を開催した。病院の財務状況や取組を紹介し、病院の今後のあり方等について意見交換を行った。 ○ 病院ホームページのリニューアル ホームページの全面改修（サイト構成の見直し、文字色や背景色の変更機能追加、マルチデバイス対応等）を行い、利用者の利便性の向上を図った。 		
03	<p>※ 診療体制の充実</p> <p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p>		<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病診連携の強化として、開業医・診療所からの初診・ 	Ⅲ	<p>手外科リハビリ患者数の増や、多様な専門職の積極的な活用をしたことについては評価できるが、</p>

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																				
	2 多様な専門職の積極的な活用		<p>検査予約に対応するため、予約受付を当院の地域連携室で行い、紹介患者のスムーズな対応に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来や救急外来での外国人患者に対応するため、通訳用タブレットの台数を増やし、円滑な診療体制の維持に努めた。 ・ 疾病、病状に応じたきめ細やかな治療として、引き続き午後5時以降の夜間透析や小児リハビリ、手外科リハビリに取り組んだ。 <p>(患者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夜間透析</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>小児リハビリ</td> <td>42 名</td> <td>48 名</td> <td>43 名</td> </tr> <tr> <td>手外科リハビリ</td> <td>10 名</td> <td>54 名</td> <td>67 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 多様な専門職の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年度末に定年を迎えた技師長1名について、その専門性を考慮し、定年延長(再延長)を行った。 ・ 定年退職した看護師4名について、引き続き非常勤職員として雇用した。また、看護師1名については、定年退職半年後に、非常勤職員として雇用した。 	項目	28 年度	29 年度	30 年度	夜間透析	2 名	2 名	4 名	小児リハビリ	42 名	48 名	43 名	手外科リハビリ	10 名	54 名	67 名		項目全体としては平年並みの実績と評価。				
項目	28 年度	29 年度	30 年度																						
夜間透析	2 名	2 名	4 名																						
小児リハビリ	42 名	48 名	43 名																						
手外科リハビリ	10 名	54 名	67 名																						
04	<p>※ 近隣の医療機関等との役割分担及び連携</p> <p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上</p>	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上</p> <p>近隣の医療機関との連携強化を推進し、地域診療所(かかりつけ医)と当院の役割分担に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>37.8 %</td> <td>41.3 %</td> <td>41.7 %</td> </tr> <tr> <td>紹介実施件数</td> <td>2,513 件</td> <td>2,437 件</td> <td>2,676 件</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>43.6 %</td> <td>50.3 %</td> <td>51.3 %</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実施件数</td> <td>4,164 件</td> <td>4,550 件</td> <td>4,354 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 歯科を除く。</p>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	紹介率	37.8 %	41.3 %	41.7 %	紹介実施件数	2,513 件	2,437 件	2,676 件	逆紹介率	43.6 %	50.3 %	51.3 %	逆紹介実施件数	4,164 件	4,550 件	4,354 件		III	近隣の医療機関との連携強化を推進し、地域診療所(かかりつけ医)と当院の役割分担に努め、紹介率、逆紹介率が向上している点については評価できるが、項目全体としては平年並みの実績と評価。
項目	28 年度	29 年度	30 年度																						
紹介率	37.8 %	41.3 %	41.7 %																						
紹介実施件数	2,513 件	2,437 件	2,676 件																						
逆紹介率	43.6 %	50.3 %	51.3 %																						
逆紹介実施件数	4,164 件	4,550 件	4,354 件																						

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																								
	2 地域連携クリニカルパスの整備普及	<p>○ 下呂市立金山病院及び小坂診療所との連携 新人看護師研修への協力や情報交換等により、下呂市立金山病院及び小坂診療所との連携に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下呂市立金山病院新任看護師 1 名が当院での研修に参加 ・院内感染対策に関する研修を実施 (下呂市立金山病院 2 回、小坂診療所 1 回) <p>また、下呂市立金山病院院内感染対策室との連携により、院内感染防止対策を強化した。</p>	<p>2 地域連携クリニカルパスの整備普及</p> <p>○ 当院は、計画管理病院の転院先となる回復リハビリテーション病院の一つであるが、地理的な問題もあり、平成 29 年度に引き続き運用実績は 0 件であった（次年度に引き続いている症例を除く）。</p> <p>今後も地域連携クリニカルパスの普及に向けて、がん診療拠点病院と意見交換を行うなど整備普及を促進する。(●)</p> <table border="1" data-bbox="1223 798 1778 975"> <thead> <tr> <th>連携パス名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東濃地域脳卒中地域連携パス</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>飛騨地域がん地域連携クリニカルパス</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ CKD（慢性腎臓病）予防に取り組む連携パスの普及促進</p> <p>当院のCKD患者の中には、末期腎不全に近い状態で来院される方や、厳密な食事管理や生活管理が困難な方もおり、連携パスに取り組めないケースが多い。</p> <p>今後も引き続きCKD手帳の早期導入をかかりつけ医に働きかけるほか、指導が必要なCKD患者に対し必要な介入が出来ているか指導内容の評価を行う。</p> <table border="1" data-bbox="1229 1284 1767 1422"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続支援を行った eGFR30 以下の患者数</td> <td>106</td> <td>138</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>うち CKD 手帳の利用者数</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>	連携パス名	28 年度	29 年度	30 年度	東濃地域脳卒中地域連携パス	0 件	0 件	0 件	飛騨地域がん地域連携クリニカルパス	0 件	0 件	0 件	区分	28 年度	29 年度	30 年度	継続支援を行った eGFR30 以下の患者数	106	138	94	うち CKD 手帳の利用者数	18	21	21		
連携パス名	28 年度	29 年度	30 年度																										
東濃地域脳卒中地域連携パス	0 件	0 件	0 件																										
飛騨地域がん地域連携クリニカルパス	0 件	0 件	0 件																										
区分	28 年度	29 年度	30 年度																										
継続支援を行った eGFR30 以下の患者数	106	138	94																										
うち CKD 手帳の利用者数	18	21	21																										

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																												
	<p>3 救急医療コミュニティシステム等の活用</p> <p>4 地域の介護・福祉機関との連携の強化</p>		<table border="1"> <tr> <td>うち腎臓内科受診者数</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>うち透析導入患者数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>支援内容：検査記録の記載、生活状況の確認と改善のアドバイス、透析への準備教育</p> <p>3 救急医療コミュニティシステム等の活用 患者情報を記録でき、他の医療機関等で記録情報を閲覧することで患者情報の共有化が可能となるICカード型診察券の導入について引き続き検討した。</p> <p>4 地域の介護・福祉機関との連携の強化</p> <p>○ ケア会議の実施 在宅復帰に向けて、リハビリ技師・医師・ケアマネ・訪問看護師・施設担当者・退院調整Ns・担当Nsが、本人・家族の思いを尊重しながらケア会議を開催することに重点を置いて取り組んだ。</p> <p>会議等実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケア会議</td> <td>196 件</td> <td>195 件</td> <td>186 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 訪問看護ステーションとの連携 訪問看護との連携強化及び在宅療養の理解を深めるため、3名の看護師が訪問看護の同行訪問を体験した。 平成30年度は新たに、5名の看護師が退院後訪問指導として、訪問看護師に同行し指導を行った。 訪問看護ステーション主催の事例検討会に18名参加した(11月30日)。当院の看護師が事例を提供し検討することでお互いの役割への理解を深めることができた。 今後も継続した看護の提供のため、訪問看護師と協力しながら指導の充実を図っていく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護同行訪問数</td> <td>15 名</td> <td>2 名</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>退院後訪問指導</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5 名</td> </tr> </tbody> </table>	うち腎臓内科受診者数	7	6	7	うち透析導入患者数	4	4	5	会議名	28 年度	29 年度	30 年度	ケア会議	196 件	195 件	186 件	項目	28 年度	29 年度	30 年度	訪問看護同行訪問数	15 名	2 名	3 名	退院後訪問指導	—	—	5 名		
うち腎臓内科受診者数	7	6	7																														
うち透析導入患者数	4	4	5																														
会議名	28 年度	29 年度	30 年度																														
ケア会議	196 件	195 件	186 件																														
項目	28 年度	29 年度	30 年度																														
訪問看護同行訪問数	15 名	2 名	3 名																														
退院後訪問指導	—	—	5 名																														

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																
			<p>○ 多職種連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内多職種カンファレンス、地域の支援担当者との合同カンファレンス等を通じて、課題を検討する場の創出により、多職種連携を推進した。 下呂市主催の「多職種連携による医療・介護の輪会議」に年3回参加した。下呂市における課題について話し合いをし、顔の見える関係づくりを構築した。 第1回 平成30年 8月 2日 81名 第2回 平成30年11月22日 82名 第3回 平成31年 1月31日 72名 <p>○ 診療報酬算定への取り組み</p> <table border="1" data-bbox="1232 622 1774 769"> <thead> <tr> <th>診療報酬</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援連携指導料</td> <td>16件</td> <td>28件</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>退院時共同指導料</td> <td>26件</td> <td>5件</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算2</td> <td>257件</td> <td>214件</td> <td>172件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※介護支援連携指導料：ケアマネージャーとの連携を評価 ※退院時共同指導料：退院時に地域医療機関との連携を評価 ※退院支援加算2：H28.4月から開始。今後、退院支援の質向上を目指し、退院支援加算1の算定に向け取り組む。</p>	診療報酬	28年度	29年度	30年度	介護支援連携指導料	16件	28件	16件	退院時共同指導料	26件	5件	12件	退院支援加算2	257件	214件	172件		
診療報酬	28年度	29年度	30年度																		
介護支援連携指導料	16件	28件	16件																		
退院時共同指導料	26件	5件	12件																		
退院支援加算2	257件	214件	172件																		
05	<p>※ 重点的に取り組む医療</p> <p>1 へき地医療の拠点的機能の充実</p>	<p>1 へき地医療の拠点的機能の充実</p> <p>飛騨南部地域の基幹病院として、不採算部門となりやすい救急・小児・産科医療の提供維持に努めた。</p> <p>平成30年度から新たに、下呂市が実施する産婦支援事業（産後ケア、産婦健診助成事業、母乳育児支援事業）に協力した。また、下呂市から乳幼児健診業務を受託するなど、地域連携による周産期の支援体制づくりに寄与した。</p> <p>○ 乳幼児健診等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 4か月児健診 12回、156人 1歳6か月健診 12回、152人 歯科健診 12回、152人 		IV	<p>地域における妊娠、出産、子育て支援に対して、下呂市と協力して産前産後における支援の充実・強化を図っている。</p> <p>予防医療の推進については、1日ドック・生活習慣病予防健診・下呂市がん検診の受診者は増加している。</p> <p>また、専門的なりハビリテーション治療の実施（リハビリ実施単位数の増）や、3つの病棟機能（急性期病棟・地域包括ケア病棟・回復期病棟）</p>																

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																																										
	2 専門的なリハビリテーション治療の実施	<p>2 専門的なリハビリテーション治療の実施</p> <p>○ リハビリテーションの実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実人数</td> <td>33,144 人</td> <td>34,486 人</td> <td>33,459 人</td> </tr> <tr> <td>疾患別リハ実施数</td> <td>88,854 単位</td> <td>91,706 単位</td> <td>92,330 単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 各種認定資格等の取得を推進し、リハビリテーションの充実、早期離床の推進及び退院後の生活を見据えた住環境整備等の指導に当たった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>認定資格等</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>呼吸認定療法士</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>早期離床アドバイザー</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター</td> <td>15 名</td> <td>16 名</td> <td>16 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※30 年度:理学療法士、作業療法士 計 22 名</p> <p>○ 疾病、病状に応じたきめ細やかなリハビリテーションの実施(患者数) (No.3 再掲)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児リハビリ</td> <td>42 名</td> <td>48 名</td> <td>43 名</td> </tr> <tr> <td>手外科リハビリ</td> <td>10 名</td> <td>54 名</td> <td>67 名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	実人数	33,144 人	34,486 人	33,459 人	疾患別リハ実施数	88,854 単位	91,706 単位	92,330 単位	認定資格等	28 年度	29 年度	30 年度	呼吸認定療法士	5 名	5 名	5 名	早期離床アドバイザー	1 名	1 名	1 名	福祉住環境コーディネーター	15 名	16 名	16 名	項目	28 年度	29 年度	30 年度	小児リハビリ	42 名	48 名	43 名	手外科リハビリ	10 名	54 名	67 名	<p>3 急性期医療の推進</p> <p>急性期医療の強化として、岐阜大学附属病院高次救命治療センターから医師の派遣を受け、地域県民が必要とする急性期医療の確保に寄与した。</p> <p>○ 招へい状況 毎月 1 回、延べ 12 日</p> <p>救急患者受診者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,933 名</td> <td>4,846 名</td> <td>4,788 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>救急車受入台数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入件数</td> <td>1,232 件</td> <td>1,216 件</td> <td>1,247 件</td> </tr> <tr> <td>一日平均台数</td> <td>3.37 台</td> <td>3.33 台</td> <td>3.42 台</td> </tr> </tbody> </table>	28 年度	29 年度	30 年度	4,933 名	4,846 名	4,788 名	区分	28 年度	29 年度	30 年度	受入件数	1,232 件	1,216 件	1,247 件	一日平均台数	3.37 台	3.33 台	3.42 台		<p>の充実により、在宅療養支援体制を構築及び推進しており、項目全体で特に進捗していると評価。</p>
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
実人数	33,144 人	34,486 人	33,459 人																																																												
疾患別リハ実施数	88,854 単位	91,706 単位	92,330 単位																																																												
認定資格等	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
呼吸認定療法士	5 名	5 名	5 名																																																												
早期離床アドバイザー	1 名	1 名	1 名																																																												
福祉住環境コーディネーター	15 名	16 名	16 名																																																												
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
小児リハビリ	42 名	48 名	43 名																																																												
手外科リハビリ	10 名	54 名	67 名																																																												
28 年度	29 年度	30 年度																																																													
4,933 名	4,846 名	4,788 名																																																													
区分	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
受入件数	1,232 件	1,216 件	1,247 件																																																												
一日平均台数	3.37 台	3.33 台	3.42 台																																																												
	3 急性期医療の推進																																																														

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																																														
4	予防医療の推進	<p>4 予防医療の推進</p> <p>平成 26 年度以降、当院で旧下呂町（6 地区）の住民健診を実施し、平成 28 年度からは下呂市乳がん、前立腺がん検診を受託するなど、健康診断受診率の向上と予防医療の推進を図っている。</p> <p>下呂市がん検診は、要件変更等（※）により前年度と比較し 300 人以上の増となった。※乳がん検診：41 歳以上「2 年に 1 回」を「毎年」に変更</p> <p>また、昨年度に引き続き、勤労者のために「日曜健診」を 3 回実施し 83 名の受診者を受け入れた。</p> <p>日曜健診の実施人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87 名</td> <td>83 名</td> <td>83 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合健診センター部 受診者数 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 日ドック</td> <td>1,029</td> <td>1,069</td> <td>1,111</td> </tr> <tr> <td>1 日+MR I</td> <td>67</td> <td>63</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>脳ドック</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診</td> <td>1,556</td> <td>1,699</td> <td>1,744</td> </tr> <tr> <td>下呂市がん検診</td> <td>1,598</td> <td>1,626</td> <td>1,950</td> </tr> <tr> <td>下呂市特定・すこやか健診</td> <td>711</td> <td>625</td> <td>623</td> </tr> <tr> <td>定期健診（下呂病院、下呂看護）</td> <td>681</td> <td>670</td> <td>798</td> </tr> <tr> <td>下呂市肝炎ウィルス検査</td> <td>63</td> <td>51</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>その他（企業健診他）</td> <td>447</td> <td>501</td> <td>582</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,156</td> <td>6,307</td> <td>6,910</td> </tr> </tbody> </table>	28 年度	29 年度	30 年度	87 名	83 名	83 名		28 年度	29 年度	30 年度	1 日ドック	1,029	1,069	1,111	1 日+MR I	67	63	46	脳ドック	4	3	1	生活習慣病予防健診	1,556	1,699	1,744	下呂市がん検診	1,598	1,626	1,950	下呂市特定・すこやか健診	711	625	623	定期健診（下呂病院、下呂看護）	681	670	798	下呂市肝炎ウィルス検査	63	51	55	その他（企業健診他）	447	501	582	合計	6,156	6,307	6,910	<p>転院搬送件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手 段</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D r へリ</td> <td>32 件</td> <td>31 件</td> <td>42 件</td> </tr> <tr> <td>救急車</td> <td>38 件</td> <td>44 件</td> <td>54 件</td> </tr> </tbody> </table>	手 段	28 年度	29 年度	30 年度	D r へリ	32 件	31 件	42 件	救急車	38 件	44 件	54 件		
28 年度	29 年度	30 年度																																																																	
87 名	83 名	83 名																																																																	
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																
1 日ドック	1,029	1,069	1,111																																																																
1 日+MR I	67	63	46																																																																
脳ドック	4	3	1																																																																
生活習慣病予防健診	1,556	1,699	1,744																																																																
下呂市がん検診	1,598	1,626	1,950																																																																
下呂市特定・すこやか健診	711	625	623																																																																
定期健診（下呂病院、下呂看護）	681	670	798																																																																
下呂市肝炎ウィルス検査	63	51	55																																																																
その他（企業健診他）	447	501	582																																																																
合計	6,156	6,307	6,910																																																																
手 段	28 年度	29 年度	30 年度																																																																
D r へリ	32 件	31 件	42 件																																																																
救急車	38 件	44 件	54 件																																																																

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																																				
		<p>健康診断収益の推移 単位：千円(税抜)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康診断収益</td> <td>93,011</td> <td>97,370</td> <td>100,142</td> </tr> </tbody> </table> <p>特定保健指導の対象団体のほとんどで実施率が向上した。 一方、実施件数(実数)は平成29年度と比較して横ばいとなっている。今後、さらに実施件数が増やせるよう、健診日当日の初回面接を推奨するとともに、協会けんぽや集合契約の受診者などに対して、重点的な指導勧奨を行っていく。</p> <p>特定保健指導実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実数</td> <td>106 件</td> <td>156 件</td> <td>157 件</td> </tr> <tr> <td>延べ数</td> <td>176 件</td> <td>277 件</td> <td>346 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※延べ数：「初回面接」と「実績評価」の両方をカウント</p> <p>特定保健指導実施率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県職員</td> <td>75.0</td> <td>92.0</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>県警察職員</td> <td>75.0</td> <td>66.7</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>61.2</td> <td>68.1</td> <td>69.4</td> </tr> <tr> <td>協会けんぽ</td> <td>29.6</td> <td>45.8</td> <td>45.2</td> </tr> <tr> <td>市町村職員</td> <td>—</td> <td>70.0</td> <td>73.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>胸部CTなどの画像検査については、前年度と比較し減少しているものの、秋以降のPR強化により、下半期の受診者数は改善した。</p> <p>脳MRI、胸部CT、腹部CT等 がん検査受診者数 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳MRI</td> <td>106</td> <td>105</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>胸部CT</td> <td>117</td> <td>115</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>腹部CT</td> <td>104</td> <td>93</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>全身MRI・CT</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>大腸CT</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		28 年度	29 年度	30 年度	健康診断収益	93,011	97,370	100,142	区分	28 年度	29 年度	30 年度	実数	106 件	156 件	157 件	延べ数	176 件	277 件	346 件		28 年度	29 年度	30 年度	県職員	75.0	92.0	94.4	県警察職員	75.0	66.7	80.0	教職員	61.2	68.1	69.4	協会けんぽ	29.6	45.8	45.2	市町村職員	—	70.0	73.3	項目	28 年度	29 年度	30 年度	脳MRI	106	105	83	胸部CT	117	115	100	腹部CT	104	93	78	全身MRI・CT	40	38	23	大腸CT	2	5	0			
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																						
健康診断収益	93,011	97,370	100,142																																																																						
区分	28 年度	29 年度	30 年度																																																																						
実数	106 件	156 件	157 件																																																																						
延べ数	176 件	277 件	346 件																																																																						
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																						
県職員	75.0	92.0	94.4																																																																						
県警察職員	75.0	66.7	80.0																																																																						
教職員	61.2	68.1	69.4																																																																						
協会けんぽ	29.6	45.8	45.2																																																																						
市町村職員	—	70.0	73.3																																																																						
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																																						
脳MRI	106	105	83																																																																						
胸部CT	117	115	100																																																																						
腹部CT	104	93	78																																																																						
全身MRI・CT	40	38	23																																																																						
大腸CT	2	5	0																																																																						

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																												
	5 在宅療養支援体制の構築及び 推進	<table border="1" data-bbox="568 252 1140 389"> <tr> <td>前立腺MRI</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>もの忘れドック</td> <td>—</td> <td>22</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>スクリーニング検査(※)</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>375</td> <td>396</td> <td>321</td> </tr> </table> <p data-bbox="568 392 1099 419">※アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査</p> <p data-bbox="533 459 904 486">○ 下呂地域認知機能低下予防研究会</p> <p data-bbox="533 491 1178 683">下呂地域における「早期認知症予防システムの構築」を目指し、下呂市（地域包括センター）、下呂市医師会、下呂歯科医師会及び薬剤師会と連携し、「認知症早期発見のための下呂式簡易知能検査」や「予防リハビリ」について検討を進めるとともに、地域シニアクラブの協力を得て、実際に試行することにより、その手法と有効性について検証を進めた。</p> <ul data-bbox="568 707 1016 734" style="list-style-type: none"> 認知機能低下予防リハビリ研修（集団指導） <table border="1" data-bbox="568 737 1113 874"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>26 回</td> <td>12 回</td> <td>5 回</td> </tr> <tr> <td>実参加者数</td> <td>157 名</td> <td>168 名</td> <td>88 名</td> </tr> <tr> <td>参加クラブ数</td> <td>10 団体</td> <td>3 団体</td> <td>1 団体</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="568 911 911 938" style="list-style-type: none"> 予防リハビリ指導（院内個別指導） <table border="1" data-bbox="568 941 1108 1045"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>5 例 (2)</td> <td>1 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>延べ実施数</td> <td>14 回</td> <td>3 回</td> <td>2 回</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="568 1048 1021 1075">※H28 5 症例中、うち 2 例は H27 と同一症例</p> <p data-bbox="533 1114 904 1141">5 在宅療養支援体制の構築及び推進</p> <p data-bbox="533 1145 757 1173">○ 地域包括ケア病棟</p> <p data-bbox="533 1177 1178 1305">病床機能の役割分担として、地域包括ケア病棟 3 棟 104 床（平成 30 年 10 月より東 3 階病棟 28 床変更）を運用しており、当院では 3 つの病棟機能（急性期病棟・地域包括ケア病棟・回復期病棟）により、在宅療養支援体制を構築している。</p> <p data-bbox="533 1310 1178 1433">地域包括ケア病棟の効率的な病棟運営を行うため、毎週 2 回を定期的に、また臨時的に地域包括ケア病棟判定会議を開催し、地域包括ケア病棟への転棟時期を決定すると同時に早期在宅復帰支援を推進した。</p>	前立腺MRI	—	5	5	もの忘れドック	—	22	19	スクリーニング検査(※)	6	13	13	計	375	396	321	実績	28 年度	29 年度	30 年度	実施回数	26 回	12 回	5 回	実参加者数	157 名	168 名	88 名	参加クラブ数	10 団体	3 団体	1 団体	実績	28 年度	29 年度	30 年度	症例数	5 例 (2)	1 例	2 例	延べ実施数	14 回	3 回	2 回			
前立腺MRI	—	5	5																																														
もの忘れドック	—	22	19																																														
スクリーニング検査(※)	6	13	13																																														
計	375	396	321																																														
実績	28 年度	29 年度	30 年度																																														
実施回数	26 回	12 回	5 回																																														
実参加者数	157 名	168 名	88 名																																														
参加クラブ数	10 団体	3 団体	1 団体																																														
実績	28 年度	29 年度	30 年度																																														
症例数	5 例 (2)	1 例	2 例																																														
延べ実施数	14 回	3 回	2 回																																														

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>病棟名・区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">東 4</td> <td>延べ患者数</td> <td>10,758 人</td> <td>10,941 人</td> <td>10,473 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>77.6%</td> <td>78.9%</td> <td>75.5%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>95.2%</td> <td>90.3%</td> <td>93.0%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>37.4 日</td> <td>33.5 日</td> <td>38.6 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">西 4</td> <td>延べ患者数</td> <td>10,786 人</td> <td>11,041 人</td> <td>10,062 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>77.8%</td> <td>79.6%</td> <td>72.6%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>87.8%</td> <td>93.2%</td> <td>83.1%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>34.6 日</td> <td>32.2 日</td> <td>33.5 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">東 3</td> <td>延べ患者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,269 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>64.2%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16.4 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※東3 病棟は、運用開始のH30.10 月からの実績 ※在宅復帰率は6 ヶ月平均の3 月末値</p> <p>○ 継続看護連絡会議 既存の退院支援プログラムの見直し、外来通院中からの継続的な支援方法等について検討した。次年度は入院時の支援の充実に取り組む。</p> <p>会議の実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域包括ケア判定会議</td> <td>112 回</td> <td>117 回</td> <td>120 回</td> </tr> <tr> <td>継続看護連絡会議</td> <td>81 回</td> <td>144 回</td> <td>105 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 介護者及び関係施設職員に係る褥瘡指導 当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が、メール、電話、手紙などでの相談に対応した(約160 件)。また、関係施設職員に対する褥瘡ケア指導を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関係施設職員褥瘡ケア指導</td> <td>9 回</td> <td>13 回</td> <td>8 回</td> </tr> </tbody> </table>	病棟名・区分	28 年度	29 年度	30 年度	東 4	延べ患者数	10,758 人	10,941 人	10,473 人	病床利用率	77.6%	78.9%	75.5%	在宅復帰率	95.2%	90.3%	93.0%	平均在院日数	37.4 日	33.5 日	38.6 日	西 4	延べ患者数	10,786 人	11,041 人	10,062 人	病床利用率	77.8%	79.6%	72.6%	在宅復帰率	87.8%	93.2%	83.1%	平均在院日数	34.6 日	32.2 日	33.5 日	東 3	延べ患者数	—	—	3,269 人	病床利用率	—	—	64.2%	在宅復帰率	—	—	97.7%	平均在院日数	—	—	16.4 日	会議名	28 年度	29 年度	30 年度	地域包括ケア判定会議	112 回	117 回	120 回	継続看護連絡会議	81 回	144 回	105 回		28 年度	29 年度	30 年度	関係施設職員褥瘡ケア指導	9 回	13 回	8 回			
病棟名・区分	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
東 4	延べ患者数	10,758 人	10,941 人	10,473 人																																																																												
	病床利用率	77.6%	78.9%	75.5%																																																																												
	在宅復帰率	95.2%	90.3%	93.0%																																																																												
	平均在院日数	37.4 日	33.5 日	38.6 日																																																																												
西 4	延べ患者数	10,786 人	11,041 人	10,062 人																																																																												
	病床利用率	77.8%	79.6%	72.6%																																																																												
	在宅復帰率	87.8%	93.2%	83.1%																																																																												
	平均在院日数	34.6 日	32.2 日	33.5 日																																																																												
東 3	延べ患者数	—	—	3,269 人																																																																												
	病床利用率	—	—	64.2%																																																																												
	在宅復帰率	—	—	97.7%																																																																												
	平均在院日数	—	—	16.4 日																																																																												
会議名	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
地域包括ケア判定会議	112 回	117 回	120 回																																																																													
継続看護連絡会議	81 回	144 回	105 回																																																																													
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
関係施設職員褥瘡ケア指導	9 回	13 回	8 回																																																																													

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																						
		<p>○ 在宅療養ハンドブック 外来部門では、「在宅療養ハンドブック」を基に患者情報を共有し、継続看護が必要な患者に対して、生活指導を行うことができた。 平成 30 年度は外来看護師が関わり、在宅療養指導料を 548 件算定した。</p> <table border="0"> <tr> <td>整形外科自己注射指導料</td> <td>251 件 (39 人)</td> </tr> <tr> <td>小児自己注射指導料</td> <td>87 件 (21 人)</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科ストマ指導料</td> <td>97 件 (8 人)</td> </tr> <tr> <td>がん患者指導管理料</td> <td>1 件 (1 人)</td> </tr> <tr> <td>内科自己注射管理料</td> <td>112 件 (22 人)</td> </tr> </table> <p>○ 在宅患者訪問看護・指導料（専門性の高い訪問看護実施） 平成 28 年度から、通院が困難な在宅療養を行っている患者に対し、計画的な訪問看護を実施している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>訪問看護・指導内容</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緩和ケア(退院後指導)</td> <td>1 回</td> <td>1 回</td> <td>4 回</td> </tr> <tr> <td>褥瘡ケア</td> <td>3 回</td> <td>6 回</td> <td>1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 周産期医療の推進 地域における妊娠、出産、子育て支援に対して、下呂市と協力して産前産後における支援の充実・強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下呂市と連携し、産婦支援事業（産後ケア、産婦健診助成事業、母乳育児支援事業）の導入 産後 2 週間、4 週間健診の実施 ハイリスク母子に対する保健師・地域担当者による連携支援 	整形外科自己注射指導料	251 件 (39 人)	小児自己注射指導料	87 件 (21 人)	泌尿器科ストマ指導料	97 件 (8 人)	がん患者指導管理料	1 件 (1 人)	内科自己注射管理料	112 件 (22 人)	訪問看護・指導内容	28 年度	29 年度	30 年度	緩和ケア(退院後指導)	1 回	1 回	4 回	褥瘡ケア	3 回	6 回	1 回			
整形外科自己注射指導料	251 件 (39 人)																										
小児自己注射指導料	87 件 (21 人)																										
泌尿器科ストマ指導料	97 件 (8 人)																										
がん患者指導管理料	1 件 (1 人)																										
内科自己注射管理料	112 件 (22 人)																										
訪問看護・指導内容	28 年度	29 年度	30 年度																								
緩和ケア(退院後指導)	1 回	1 回	4 回																								
褥瘡ケア	3 回	6 回	1 回																								

過去の報告書に記載された改善方策のうちその実施が完了した旨の記載がないものがある場合には、その実施状況

看護師の再就職支援者研修の実績 (●)

- 看護師の再就職支援者研修の参加者がなかったことについて、平成 30 年度は次のような取り組みを行った。
 - ・ 病院のホームページを利用し、情報発信を行った。
 - ・ 看護協会主催の再就職支援者研修実施病院に登録した。
 - ・ 下呂市広報紙 6 月号に情報を掲載し、情報発信を行った。

コメディカル等の医療従事者の確保 (●)

- 薬剤師の欠員（1人）が充足できていない状態が続いていることについて、平成30年度は次のような取り組みを行った。
 - ・ 病院のホームページのリニューアルに合わせて薬剤部のページを充実し、当院での薬剤師の業務紹介や病院見学受入れなどについて、情報発信を行っている。
 - ・ 採用試験の募集要項を、日本病院薬剤師会や岐阜県病院薬剤師会のホームページに掲載しPRを行った。
また、薬剤部のある全国の大学へ募集要項を送付した。
 - ・ 岐阜薬科大学を訪問し薬剤師募集の案内をした。
 - ・ 当院の臨床実習経験者（当時大学5年生）の卒業見込学生に募集の案内をした。
 - ・ 8月に開催された薬学生を対象にした「飛騨高山実地研修」に参加し、当院のPRを行った。
 - ・ 中日新聞の岐阜版・高山市民時報に薬剤師を含む職員募集について掲載し、PRを行った。

地域連携クリニカルパスの整備普及 (●)

- 地域連携クリニカルパスは、がん診療拠点病院からの依頼で進められるもので、当院から主導的に働きかけることが難しく、がん診療拠点病院の担当者とは良好な関係を築くよう努めてはいるものの、地域連携クリニカルパスの整備普及までには至っていない。
今後、地域連携クリニカルパスの普及に向けがん診療拠点病院と意見交換を行うなど整備普及を促進する。

中期 目標	<p>1-2 調査研究事業 法人で提供する医療の質の向上及び県内の医療水準の向上を図るための調査及び研究を行うことを求める。</p> <p>※ 調査及び臨床研究等の推進 高度・先進医療の各分野において、疫学調査や診断技法・治療法の開発、臨床応用のための研究を推進すること。 岐阜県及び飛騨地域の医療の水準の向上に寄与する観点から、大学等の研究機関や企業との共同研究などを促進すること。</p> <p>※ 診療情報等の活用 電子カルテシステムを中心とする医療総合情報システムをより有効に活用し、診療等で得た情報を医療の質の向上に活用するとともに、他の医療機関への情報提供を行うこと。</p>
----------	--

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由												
06	<p>※ 調査及び臨床研究等の推進</p> <p>1 調査及び臨床研究等の推進</p>		<p>1 調査及び臨床研究等の推進 薬剤部・事務局（契約締結、収入・研究予算管理）で役割分担し治験実施体制を整えている。また、受託実績に応じて研究に必要な予算を実施診療科に配分する仕組みにより受託件数の増加を促している。</p> <p>受託実績 ※契約締結数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>受託内容</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用成績調査</td> <td>2 件</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>特定使用成績調査</td> <td>1 件</td> <td>1 件</td> <td>0 件</td> </tr> </tbody> </table>	受託内容	28 年度	29 年度	30 年度	使用成績調査	2 件	0 件	0 件	特定使用成績調査	1 件	1 件	0 件	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。
受託内容	28 年度	29 年度	30 年度														
使用成績調査	2 件	0 件	0 件														
特定使用成績調査	1 件	1 件	0 件														
07	<p>※ 診療情報等の活用</p> <p>1 医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用</p> <p>2 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用</p>		<p>1 医療総合情報システムに蓄積された各種医療データの有効活用 医療総合情報システムに蓄積されたデータを利用して、診療委員会における報告書や、診療実績、収支状況等の経営概要一覧を作成し、それらを毎月行う管理会議で職員に資料提示して病院の実状を周知させ、経営改善に向けてよりよい医療体制づくりに努めた。 また、各部署からの照会に対し、電子カルテ検索システムやDPCに関わるデータから資料を作成して提供した。</p> <p>2 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用 各々の症例に関して、カンファレンスで集積したエビデンスに基づき評価を行い、成績の向上に努めた。</p>	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。												

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																								
			<p>また、各研究機関等が運営している医療情報データベースに参加し、症例の登録を行うとともに、データの活用と分析を進めている。</p> <p>医療情報データベース等への症例登録状況</p> <table border="1" data-bbox="1232 399 1765 606"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NOBUNAGA登録</td> <td>174 例</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>NCD (外科)</td> <td>67 例</td> <td>124 例</td> <td>102 例</td> </tr> <tr> <td>NCD (脳外科)</td> <td>61 例</td> <td>31 例</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>JND (脳外科)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>212 例</td> </tr> <tr> <td>全国がん登録</td> <td>—</td> <td>145例</td> <td>152 例</td> </tr> </tbody> </table> <p>※NOBUNAGA調査登録はH28年9月で終了 ※NCD (脳外科) はH29年12月で終了</p> <p>年報 42 号を発刊、業績・経営概要・論文等について平成 29 年度の実績をまとめ、関係機関等に配布した。また病院 HP にも掲載し、その内容を公表した。</p>	種類	28年度	29年度	30年度	NOBUNAGA登録	174 例	—	—	NCD (外科)	67 例	124 例	102 例	NCD (脳外科)	61 例	31 例	—	JND (脳外科)	—	—	212 例	全国がん登録	—	145例	152 例		
種類	28年度	29年度	30年度																										
NOBUNAGA登録	174 例	—	—																										
NCD (外科)	67 例	124 例	102 例																										
NCD (脳外科)	61 例	31 例	—																										
JND (脳外科)	—	—	212 例																										
全国がん登録	—	145例	152 例																										

中期 目標	<p>1-3 教育研修事業 医療の高度化・多様化に対応できるよう、医師・看護師・コメディカルを目指す学生及び救急救命士に対する教育、臨床研修医の受入れなど、地域の医療従事者への教育及び研修を実施することを求める。</p> <p>※ 医師の卒後臨床研修等の充実 研修医等の研修施設として認められた病院(臨床研修病院)として、臨床研修医及びレジデント(専門分野の研修医)の積極的な受入れを行うこと。 岐阜大学医学部附属病院、岐阜県が設立した他の地方独立行政法人などの臨床研修病院との連携や、法人の有する人的・物的資源を生かした独自の臨床研修プログラムの開発など、質の高い医療従事者の養成に努めること。</p> <p>※ 医師・看護師・コメディカルを目指す学生、救急救命士等に対する教育の実施 医学生、岐阜県立看護大学、岐阜県立衛生専門学校、岐阜県立看護専門学校等の学生及びコメディカルを目指す学生の実習の受入れ、救急救命士の病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実を図ること。</p>
----------	--

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
08	<p>※ 医師の卒後臨床研修等の充実</p> <p>1 地域医療を目指す医師の養成</p> <p>2 臨床研修医の県内定着化の促進</p>		<p>1 地域医療を目指す医師の養成 協力型の臨床研修病院として岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センター等から地域医療研修を行う臨床研修医の受入れを行うとともに、基幹型の臨床研修病院として、計3名の臨床研修医について、研修を行った。</p> <p>【研修の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次研修医 2名 実施した研修科：内科12ヶ月、救急科6ヶ月、 脳神経外科3ヶ月、精神科3ヶ月 ・ 2年次研修医 1名 実施した研修科：産婦人科1ヶ月、整形外科1ヶ月、 地域医療1ヶ月、脳神経外科1ヶ月 内科8ヶ月 <p>2 臨床研修医の県内定着化の促進 岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センター等との密接な連携のもとに当院を実践フィールドとし、地域医療を担う医師の養成を実施した。 見学を希望する医学生7名に対し、積極的に地域医療に関する説明を行った。 平成24年度及び平成29年度に常勤職員として採用した初期臨床研修医2名については、それぞれ当院の脳神経外科医及び内科医として引き続き勤務している。</p>	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																								
			初期臨床研修医数 (各年 3. 31 時点) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修医数</td> <td>2 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>うち当該年度の 新規採用数</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> <td>1 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>上記採用者の うち現在の勤 務地が岐阜県 内である者</td> <td>1 名</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1 名</td> </tr> </tbody> </table>		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	研修医数	2 名	1 名	1 名	3 名	うち当該年度の 新規採用数	1 名	0 名	1 名	2 名	上記採用者の うち現在の勤 務地が岐阜県 内である者	1 名	—	—	1 名																																						
	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度																																																									
研修医数	2 名	1 名	1 名	3 名																																																									
うち当該年度の 新規採用数	1 名	0 名	1 名	2 名																																																									
上記採用者の うち現在の勤 務地が岐阜県 内である者	1 名	—	—	1 名																																																									
09	※ 医師・看護師・コメディカルを 目指す学生、救急救命士等に対す る教育の実施 1 医学生、看護学生やコメディカ ルを目指す学生の実習受入れ		1 医学生、看護学生やコメディカルを目指す学生の実習受 入れ ○ 医学生の実習受入実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学生</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> </tr> </tbody> </table> ○ 看護学生の実習受入実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下呂看護専門学校</td> <td>93 名</td> <td>79 名</td> <td>83 名</td> </tr> <tr> <td>岐阜県立看護大学</td> <td>6 名</td> <td>7 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>102 名</td> <td>86 名</td> <td>90 名</td> </tr> </tbody> </table> ○ コメディカル等の実習受入実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>13 名</td> <td>9 名</td> <td>12 名</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>1 名</td> <td>3 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>1 名</td> <td>— 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>—</td> <td>4 名</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>—</td> <td>3 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>—</td> <td>— 名</td> <td>1 名</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	28 年度	29 年度	30 年度	医学生	0 名	0 名	0 名	学校名	28 年度	29 年度	30 年度	下呂看護専門学校	93 名	79 名	83 名	岐阜県立看護大学	6 名	7 名	7 名	その他	3 名	0 名	0 名	計	102 名	86 名	90 名	職種	28 年度	29 年度	30 年度	理学療法士	13 名	9 名	12 名	作業療法士	1 名	3 名	4 名	言語聴覚士	1 名	— 名	2 名	薬剤師	—	4 名	—	管理栄養士	—	3 名	2 名	社会福祉士	—	— 名	1 名	III	継続的な取り組みが実施 できているが、平年並みの 実績と評価。
項 目	28 年度	29 年度	30 年度																																																										
医学生	0 名	0 名	0 名																																																										
学校名	28 年度	29 年度	30 年度																																																										
下呂看護専門学校	93 名	79 名	83 名																																																										
岐阜県立看護大学	6 名	7 名	7 名																																																										
その他	3 名	0 名	0 名																																																										
計	102 名	86 名	90 名																																																										
職種	28 年度	29 年度	30 年度																																																										
理学療法士	13 名	9 名	12 名																																																										
作業療法士	1 名	3 名	4 名																																																										
言語聴覚士	1 名	— 名	2 名																																																										
薬剤師	—	4 名	—																																																										
管理栄養士	—	3 名	2 名																																																										
社会福祉士	—	— 名	1 名																																																										

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																										
	2 救急救命士の病院実習など地域 医療従事者への研修の実施及び充 実		<table border="1" data-bbox="1234 253 1776 328"> <tr> <td>医療事務</td> <td>2 名</td> <td>- 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17 名</td> <td>19 名</td> <td>23 名</td> </tr> </table> <p data-bbox="1205 363 1570 387">○ 特別支援学校生徒の実習受入実績</p> <table border="1" data-bbox="1234 392 1682 475"> <tr> <td>28 年度</td> <td>29 年度</td> <td>30 年度</td> </tr> <tr> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>3 名</td> </tr> </table> <p data-bbox="1205 510 1570 534">○ 弥富看護学校の見学実習について</p> <ul data-bbox="1234 539 1783 598" style="list-style-type: none"> ・ 小児看護学・老年看護学・統合実習については3名の受入れを行った。 <p data-bbox="1205 633 1547 657">○ 下呂看護専門学校への講師派遣</p> <table border="1" data-bbox="1234 662 1753 847"> <tr> <td>職種</td> <td>28 年度</td> <td>29 年度</td> <td>30 年度</td> </tr> <tr> <td>医師、歯科医師</td> <td>9 名</td> <td>7 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>8 名</td> <td>11 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22 名</td> <td>23 名</td> <td>18 名</td> </tr> </table> <p data-bbox="1205 900 1783 956">2 救急救命士の病院実習など地域医療従事者への研修の実施及び充実</p> <p data-bbox="1205 963 1727 987">○ 下呂市消防本部の救急救命士の病院実習受入実績</p> <table border="1" data-bbox="1234 992 1767 1204"> <tr> <td>実習項目</td> <td>28 年度</td> <td>29 年度</td> <td>30 年度</td> </tr> <tr> <td>就業前教育実習</td> <td>2 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> </tr> <tr> <td>再教育実習</td> <td>24 名</td> <td>26 名</td> <td>23 名</td> </tr> <tr> <td>薬剤投与実習</td> <td>2 名</td> <td>0 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>消防学校病院実習</td> <td>0 名</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28 名</td> <td>28 名</td> <td>27 名</td> </tr> </table>	医療事務	2 名	- 名	2 名	計	17 名	19 名	23 名	28 年度	29 年度	30 年度	1 名	1 名	3 名	職種	28 年度	29 年度	30 年度	医師、歯科医師	9 名	7 名	7 名	看護師	8 名	11 名	7 名	コメディカル	5 名	5 名	4 名	計	22 名	23 名	18 名	実習項目	28 年度	29 年度	30 年度	就業前教育実習	2 名	0 名	0 名	再教育実習	24 名	26 名	23 名	薬剤投与実習	2 名	0 名	2 名	消防学校病院実習	0 名	2 名	2 名	計	28 名	28 名	27 名		
医療事務	2 名	- 名	2 名																																																												
計	17 名	19 名	23 名																																																												
28 年度	29 年度	30 年度																																																													
1 名	1 名	3 名																																																													
職種	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
医師、歯科医師	9 名	7 名	7 名																																																												
看護師	8 名	11 名	7 名																																																												
コメディカル	5 名	5 名	4 名																																																												
計	22 名	23 名	18 名																																																												
実習項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																												
就業前教育実習	2 名	0 名	0 名																																																												
再教育実習	24 名	26 名	23 名																																																												
薬剤投与実習	2 名	0 名	2 名																																																												
消防学校病院実習	0 名	2 名	2 名																																																												
計	28 名	28 名	27 名																																																												

中期 目標	<p>1-4 地域支援事業 地域の医療機関から信頼され、必要とされる病院となるよう、地域への支援を行うことを求める。</p> <p>※ 地域医療への支援 地域の医療機関との連携・協力体制の充実に図り、高度先進医療機器の共同利用の促進、開放病床の利用促進など、地域基幹病院として地域医療の確保に努めること。 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援を積極的に行うこと。 岐阜大学医学部及び岐阜県総合医療センターと連携し、地域医療学の研究と地域医療に携わる医師の養成を図ること。</p> <p>※ 社会的な要請への協力 法人が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣などの社会的な要請に対し、積極的な協力を行うこと。</p> <p>※ 保健医療情報の提供・発信 県民の健康意識の醸成を図るため、専門医療情報など病院が有する保健医療情報を、県民を対象とした公開講座やホームページなどにより情報発信を行うこと。</p>
----------	---

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																								
10	<p>※ 地域医療への支援</p> <p>1 地域医療水準の向上</p>	<p>1 地域医療水準の向上</p> <p>地域医師会との情報交換会を原則第1木曜日に実施し、地域開業医との連携を図るとともに、下呂市医師会主催の学術講演会において座長・演者を務めるなどしている。</p> <p>また、二次医療体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市消防本部との情報交換会を毎月開催。症例発表や講演会を通して地域メディカルコントロールの連携を強化し、救急医療体制の充実強化を図った。</p> <p>飛騨地域メディカルコントロール協議会の感染防止部会に感染管理認定看護師が参加し、共同して病院前救護における感染対策活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議：2回（5月12日、2月1日） ・感染対策研修会：1回（3月8日） <p>○ 当院医療機器の地域開業医等の共同利用状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">医療機器</th> <th style="width: 12.5%;">28年度</th> <th style="width: 12.5%;">29年度</th> <th style="width: 12.5%;">30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MR I</td> <td>125 件</td> <td>155 件</td> <td>173 件</td> </tr> <tr> <td>C T</td> <td>25 件</td> <td>29 件</td> <td>17 件</td> </tr> <tr> <td>心エコー</td> <td>—</td> <td>1 件</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>頸動脈エコー</td> <td>—</td> <td>1 件</td> <td>3 件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>150 件</td> <td>186 件</td> <td>195 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 開放型病床の導入 医療資源の有効な活用と地域連携の推進を目指し、地元医師会</p>	医療機器	28年度	29年度	30年度	MR I	125 件	155 件	173 件	C T	25 件	29 件	17 件	心エコー	—	1 件	2 件	頸動脈エコー	—	1 件	3 件	計	150 件	186 件	195 件		III	当院医療機器の地域開業医等による共同利用が増えていることについては評価できるが、項目全体としては、 <u>平年並みの実績と評価。</u>
医療機器	28年度	29年度	30年度																										
MR I	125 件	155 件	173 件																										
C T	25 件	29 件	17 件																										
心エコー	—	1 件	2 件																										
頸動脈エコー	—	1 件	3 件																										
計	150 件	186 件	195 件																										

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																				
	<p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <p>3 へき地医療拠点病院としての地域医療支援</p>	<p>及び歯科医師会等の協力のもと、平成 24 年度から開放型病床 5 床を運用しており、患者に対し安心した療養環境の提供が図られている。</p> <p>開放型病床利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数 (実人数)</td> <td>16 名</td> <td>15 名</td> <td>17 名</td> </tr> <tr> <td>利用延べ人数</td> <td>245 名・日</td> <td>335 名・日</td> <td>149 名・日</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 へき地医療拠点病院としての地域医療支援 昨年度に引き続き、下呂市がん検診等を行い、へき地医療拠点病院として地域医療を支援している。</p> <p>○ 下呂市がん検診等の受診状況: 【No. 5 再掲】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下呂市がん検診</td> <td>1,598 名</td> <td>1,626 名</td> <td>1,950 名</td> </tr> <tr> <td>下呂市特定・すこやか健診</td> <td>711 名</td> <td>625 名</td> <td>623 名</td> </tr> <tr> <td>下呂市肝炎ウイルス検査</td> <td>63 名</td> <td>51 名</td> <td>55 名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	利用者数 (実人数)	16 名	15 名	17 名	利用延べ人数	245 名・日	335 名・日	149 名・日	種類	28 年度	29 年度	30 年度	下呂市がん検診	1,598 名	1,626 名	1,950 名	下呂市特定・すこやか健診	711 名	625 名	623 名	下呂市肝炎ウイルス検査	63 名	51 名	55 名	<p>2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援</p> <p>○ へき地・医師不足診療所等への医師出向による人的支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>出向先</th> <th>診療科</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">東白川村国保診療所</td> <td>外科</td> <td>延 12 日</td> <td>延 11 日</td> <td>延 12 日</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>延 0 日</td> <td>延 0 日</td> <td>延 0 日</td> </tr> <tr> <td>東白川村母子健康センター</td> <td>産婦人科</td> <td>延 23 日</td> <td>延 20 日</td> <td>延 20 日</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>延 35 日</td> <td>延 31 日</td> <td>延 32 日</td> </tr> </tbody> </table>	出向先	診療科	28 年度	29 年度	30 年度	東白川村国保診療所	外科	延 12 日	延 11 日	延 12 日	整形外科	延 0 日	延 0 日	延 0 日	東白川村母子健康センター	産婦人科	延 23 日	延 20 日	延 20 日	合計		延 35 日	延 31 日	延 32 日		
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																						
利用者数 (実人数)	16 名	15 名	17 名																																																						
利用延べ人数	245 名・日	335 名・日	149 名・日																																																						
種類	28 年度	29 年度	30 年度																																																						
下呂市がん検診	1,598 名	1,626 名	1,950 名																																																						
下呂市特定・すこやか健診	711 名	625 名	623 名																																																						
下呂市肝炎ウイルス検査	63 名	51 名	55 名																																																						
出向先	診療科	28 年度	29 年度	30 年度																																																					
東白川村国保診療所	外科	延 12 日	延 11 日	延 12 日																																																					
	整形外科	延 0 日	延 0 日	延 0 日																																																					
東白川村母子健康センター	産婦人科	延 23 日	延 20 日	延 20 日																																																					
合計		延 35 日	延 31 日	延 32 日																																																					

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由						
11	※ 社会的な要請への協力		<p>下呂市が実施する「障がい児療育支援事業」に対し、当院から専門知識を有する理学療法士を派遣し、社会的な要請に応えた。</p> <p>【派遣回数】</p> <table border="1" data-bbox="1227 376 1671 459"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10 回</td> <td>10 回</td> <td>8 回</td> </tr> </tbody> </table>	28 年度	29 年度	30 年度	10 回	10 回	8 回	Ⅲ	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。
28 年度	29 年度	30 年度									
10 回	10 回	8 回									
12	※ 保健医療情報の提供・発信 1 公開講座、医療相談会等の定期的開催		<p>1 公開講座、医療相談会等の定期的開催</p> <p>○ 公開講座等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティーエクササイズ (計 12 回 延べ 14 名) ベビーマッサージ等 (計 12 回 延べ 29 組 (母児)) ・ 分娩準備クラス お産の仕組み、入院方法、呼吸法等 (計 12 回 延べ 48 名) ・ 「命のふれあい講座」(受講：6 校 計 7 回) 下呂市内の全中学校へ助産師を派遣し、妊婦体験、産道体験、赤ちゃんを抱く体験を実施 ・ 摂食えん下障がい看護学習会 院内研修 1 回目 18 名、2 回目 13 名、3 回目 18 名 院外研修 1 回目 29 名 (N s 2 名、介護職 15 名、歯科医師 1 名、その他 11 名) 院外研修 2 回目 13 名 (N s 2 名、介護職 1 名、歯科医師 1 名、その他 9 名) ・ 褥瘡対策研修会出前講座 褥瘡の基礎、リスクアセスメント等 (6 施設、延べ 70 名受講) ・ 褥瘡対策研修会市民講座 1 会場、医療・介護の輪会議 鈴木院長発表 35 名受講 受講 <p>○ 感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域施設での感染対策研修会 	Ⅲ	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。						

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																										
	2 保健医療、健康管理等の情報提供		<table border="1" data-bbox="1223 280 1776 552"> <thead> <tr> <th>研修施設</th> <th>研修内容</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">さわやかナーシング</td> <td>麻疹・流行性角結膜炎 CD感染症</td> <td>20 名</td> </tr> <tr> <td>風疹・インフルエンザ・ ノロウイルス</td> <td>20 名</td> </tr> <tr> <td>豊楽園</td> <td>標準予防策</td> <td>34 名</td> </tr> <tr> <td>金山サニーラ ンド</td> <td>標準予防策</td> <td>15 名</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1189 584 1559 608">2 保健医療、健康管理等の情報提供</p> <p data-bbox="1189 616 1408 639">○ 病院広報誌の発行</p> <p data-bbox="1189 647 1783 807">「健康と医療」を7月と12月に各15,000部発行。下呂市内全域、中津川市付知町及び加子母地区、加茂郡東白川村の住民に向け全戸配布し、新規検査の紹介や下呂温泉病院運営協議会での質問に対するQ&Aの他、看護部の紹介やワクチン接種等に関する情報提供を行った。</p> <p data-bbox="1189 839 1559 863">○ 地域医師会等主催講演会への参加</p> <p data-bbox="1189 871 1783 967">地域医師会等主催の学術講演会等に当院医師・看護師等が講師、座長として参加。症例検討や講演などにより、医療情報の提供を行った。</p> <p data-bbox="1223 983 1514 1007">講師等で参加した回数・人数</p> <table border="1" data-bbox="1223 1015 1671 1142"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>13 回</td> <td>12 回</td> <td>6 回</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>30 名</td> <td>25 名</td> <td>13 名</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1189 1174 1491 1198">○ 看護学生インターンシップ</p> <ul data-bbox="1223 1206 1783 1422" style="list-style-type: none"> ・ 実習では体験できない地域連携室・外来での看護師による生活指導の活動を通し、看護の場における専門性を知ることで、看護のやりがいや未来の自分を考える機会を創出した。 ・ 地域との連携、院内の他職種連携を体験し、地域で生活することへの理解や、就職の準備や心構えなど、多くの学びを与えることができた。 	研修施設	研修内容	受講者数	さわやかナーシング	麻疹・流行性角結膜炎 CD感染症	20 名	風疹・インフルエンザ・ ノロウイルス	20 名	豊楽園	標準予防策	34 名	金山サニーラ ンド	標準予防策	15 名	項目	28 年度	29 年度	30 年度	回数	13 回	12 回	6 回	人数	30 名	25 名	13 名		
研修施設	研修内容	受講者数																													
さわやかナーシング	麻疹・流行性角結膜炎 CD感染症	20 名																													
	風疹・インフルエンザ・ ノロウイルス	20 名																													
豊楽園	標準予防策	34 名																													
金山サニーラ ンド	標準予防策	15 名																													
項目	28 年度	29 年度	30 年度																												
回数	13 回	12 回	6 回																												
人数	30 名	25 名	13 名																												

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																								
			<table border="1" data-bbox="1227 280 1700 405"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>1 回</td> <td>1 回</td> <td>1 回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>8 名</td> <td>5 名</td> <td>3 名</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1189 437 1760 496">○ 国際助産師の日イベント参加 国際助産師の日イベントでメッセージカードを配布した。</p> <p data-bbox="1189 533 1626 592">○ ふれあい看護体験2回/年 中高生を対象とした医療従事者の業務体験</p> <table border="1" data-bbox="1220 595 1722 697"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生対象</td> <td>16 名参加</td> <td>20 名参加</td> <td>20 名参加</td> </tr> <tr> <td>高校生対象</td> <td>16 名参加</td> <td>10 名参加</td> <td>24 名参加</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1189 735 1783 858">患者へのケア（洗髪・足浴）や、手作りのメッセージカードの作成・配布などの体験を通して、参加者の看護への興味が高まった。今後も感動を与えることができるよう委員会で計画し、取り組みを継続していく。</p>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	実施回数	1 回	1 回	1 回	参加人数	8 名	5 名	3 名	項目	28 年度	29 年度	30 年度	中学生対象	16 名参加	20 名参加	20 名参加	高校生対象	16 名参加	10 名参加	24 名参加		
項目	28 年度	29 年度	30 年度																										
実施回数	1 回	1 回	1 回																										
参加人数	8 名	5 名	3 名																										
項目	28 年度	29 年度	30 年度																										
中学生対象	16 名参加	20 名参加	20 名参加																										
高校生対象	16 名参加	10 名参加	24 名参加																										

中期 目標	<p>1ー5 災害等発生時における医療救護 災害等発生時において、医療救護活動の拠点機能を担うとともに、医療スタッフの派遣など医療救護を行うことを求める。</p> <p>※ 医療救護活動の拠点機能の充実 災害等発生時には、岐阜県地域防災計画に基づき、患者の受入れや医療スタッフの現地派遣など本県あるいは飛騨地域の医療救護活動の拠点機能を担うこと。</p> <p>※ 被災時における病院機能維持のための準備体制の確立 大規模災害等緊急事態を想定した業務継続計画の作成及び訓練等を実施すること。</p> <p>※ 新型インフルエンザ等発生時における役割の発揮 新型インフルエンザ等(新型インフルエンザ等対策特別措置法第2条に規定する新型インフルエンザ等をいう。以下同じ。)発生時には、指定地方公共機関として、業務計画に基づき、新型インフルエンザ等の患者の外来診療・入院の受入れ、重症症例の治療等を行うこと。</p>
----------	---

項目 No.	中期計画の取組項目	H30年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
13	<p>※ 医療救護活動の拠点機能の充実</p> <p>1 医療救護活動の拠点機能の充実</p> <p>2 原子力災害時における医療従事者派遣要請への対応</p>		<p>1 医療救護活動の拠点機能の充実 災害発生時には「岐阜県立下呂温泉病院災害対策マニュアル」により、不測の事態に対応できるよう体制を構築している。 また、下呂市消防本部と協力して防災訓練を実施し、消火活動や避難誘導等における各事項を検証した。併せて、消防計画内の休日・夜間における活動体制の見直しを図り、火災発生時の対応について確認した。 【防災訓練】 第1回訓練 平成30年 4月 3日 参加者約25名 第2回訓練 平成30年11月19日 参加者約40名 病院は、屋上ヘリポートや免震構造を備えているため、災害時の医療救護活動拠点として、更なる災害対応機能の充実に向け、引き続き体制整備等の検討を行った。</p> <p>2 原子力災害時における医療従事者派遣要請への対応 病院移転に併せ、サーベイメータ(放射線測定器)を整備し、放射線身体汚染検査によるスクリーニングを行える体制を引き続き整えている。 ・サーベイメータ(放射線測定器)がいつでも正常に動かせるように定期的に動作確認を行った。</p>	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。
14	<p>※ 被災時における病院機能維持のための準備体制の確立</p> <p>1 診療継続計画の作成及び訓練等による体制の整備</p>		<p>1 診療継続計画の作成及び訓練等による体制の整備 業務継続計画(BCP)策定部会での議論や各種セミナー</p>	III	診療継続計画の作成及び部会の開催や各種セミナーへの参加を通じてBCPのブラッシュアップを

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
	2 診療情報のバックアップシステムの構築		<p>への参加を通じて、BCPのブラッシュアップを図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務継続計画(BCP)策定部会の開催(4回) 大雨特別警報時の課題、問題点の洗い出し、対応策の検討 被害状況等報告書の様式の見直しや課題管理表の時点修正 各種セミナーへの参加 BCPブラッシュアップ訓練セミナー(7名)、 病院実務セミナー(医療機関における実効性の高いBCP対策の基本と実務)(1名) <p>2 診療情報のバックアップシステムの構築 大規模災害時におけるデータ損失のリスクに対応するため、当院の電子カルテのバックアップを岐阜県立多治見病院に、また、岐阜県総合医療センター及び岐阜県立多治見病院の電子カルテバックアップは当院のサーバ内に平成27年度に設置し、診療情報のバックアップシステムを構築している。</p>		図ったことは評価できるが、項目全体としては平年並みの実績と評価。
15	<p>※ 新型インフルエンザ等発生時における役割の発揮</p> <p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <p>2 業務計画等に基づく職員への教育及び訓練の実施</p>		<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛騨地域新型インフルエンザ等発生対応訓練への参加に併せて、メールの受信確認、事務局内部での連携体制を確認した。 新型インフルエンザ等対策に関する業務計画の一部見直しを図った。 <p>2 業務計画等に基づく職員への教育及び訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内感染防止対策研修を行った(延12日間)。 	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

中期目標	2-1 効率的な業務運営体制の確立 自律性・機動性・効率性の高い病院運営を行うための業務運営体制を確立するとともに、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に生かし、業務運営の改善及び効率化に努めることを求める。
	※ 効果的な組織体制の確立 医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ的確に対応するため、組織・業務体制の改善及び充実を図ること。 ITの活用とアウトソーシングを適切に進めるとともに、経営企画機能を強化し、経営効率の高い業務執行体制を確立すること。 危機管理事案等発生時における情報共有体制を確立すること。
	※ 診療体制及び人員配置の弾力的運用 医療需要の変化に迅速に対応するため、診療科の変更や医師、看護師等の配置の弾力的運用を行うこと。 常勤以外の雇用形態も含めた多様な専門職の活用による、効果的な医療の提供に努めること。
	※ 人事評価システムの構築 職員のモチベーション向上のため、知識、能力、経験、勤務実績等を反映させた新たな公平で客観的な人事評価制度の構築を図ること。
	※ 事務部門の専門性の向上 事務部門において、病院特有の事務に精通した法人の職員を計画的に確保し、及び育成することにより、事務部門の専門性を向上すること。
	※ コンプライアンス(法令や倫理の遵守)の徹底 職員一人ひとりが誠実かつ公正に職務を遂行するため、業務執行におけるコンプライアンスを徹底し、適正な病院運営を行うこと。
	※ 適切な情報管理 業務の情報化に対応して、情報セキュリティ対策に努めること。

項目No.	中期計画の取組項目	H30年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由
16	※ 効果的な組織体制の確立 1 効率的かつ効果的な組織体制の充実 2 各種業務のIT化の推進 3 アウトソーシング導入による合理化		1 効率的かつ効果的な組織体制の充実 引き続き経営企画部門を中心に病院の経営分析・改善等に努め、医師確保・病院経営改善等に取り組んだ。 2 各種業務のIT化の推進 人事給与システム・旅費システム等を活用し、事務の合理化を引き続き進めた。令和2年3月末で現行システムサポートが終了するため、新システム移行に向けて調査の実施、検討を開始した。 3 アウトソーシング導入による合理化 アウトソーシングが導入可能な定期的な業務について検討したほか、外部に委託した全ての委託事業について見直しを行った。	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由						
	<p>4 経営効率の高い業務執行体制の充実</p> <p>5 危機管理事案等発生時における情報共有体制の確立</p>		<p>業務委託件数</p> <table border="1" data-bbox="1234 284 1688 352"> <thead> <tr> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74 件</td> <td>77 件</td> <td>67 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 経営効率の高い業務執行体制の充実 毎月最終水曜日開催の管理会議に職員の代表者 2 名がオブザーバーとして参加。必要に応じ行われる労使間の協議会や意見交換会で交わされた業務や経営に関する意見や提案などを病院運営に反映させ、風通しの良い職場づくりに努めた。 【労使協議会回数】12 回</p> <p>平成 29 年度末に定年を迎えた技師長 1 名について、その専門性を考慮し、定年延長（再延長）を行った。</p> <p>月次決算状況を理事長に提出する際、月次のキャッシュフローを添付し、資金の流れや資金量を常に注視する体制に引き続き努めた。</p> <p>平成 27 年度に締結したユニオンショップ協定を機に、労使による適正な労働環境の向上に引き続き努めた。</p> <p>5 危機管理事案等発生時における情報共有体制の確立 昨年度に引き続き、毎朝行う幹部会において、危機管理事案の報告と併せて対策を講じるとともに、管理会議において情報共有を行った。</p> <p>大雨特別警報発令時の課題・問題点の洗い出しを行い、災害レベルに応じた参集基準を見直し、災害発生時における院内体制を整備した。</p>	28 年度	29 年度	30 年度	74 件	77 件	67 件		
28 年度	29 年度	30 年度									
74 件	77 件	67 件									
17	<p>※ 診療体制及び人員配置の弾力的運用</p> <p>1 弾力的運用の実施</p>		<p>1 弾力的運用の実施</p> <p>○ 柔軟な勤務配置 看護部では、状況に応じたタイムリーな支援体制を構築するために、入退院患者数や看護必要度の把握と支援状況の周知を図った。</p>	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。						

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																		
	2 効果的な体制による医療の提供		<p>また、退職後の看護師が中心となって患者搬送を行う「ポーター制度」を引き続き実施した。平成30年度は患者搬送に加えて、外来支援も定期的に行えるよう支援体制を整備した。</p> <p>全部署からの支援時間数 単位：時間</p> <table border="1" data-bbox="1234 427 1662 499"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,711.0</td> <td>2,532.1</td> <td>2,252.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 病棟薬剤業務実施加算(●) 薬剤師に係る欠員充当が実施できず、病棟毎に担当者を張り付けできない状況が続いており、加算の取得には至っていない。今後も欠員を充当し、加算を取得することを目指す。</p> <p>2 効果的な体制による医療の提供 【多様な勤務形態の非常勤職員の活用】</p> <p>○ 看護部では看護協会WLB(仕事とプライベートのバランスをとれるようにする取り組み)の推進を受けて、働きやすい職場作りを目指し勤務体制の検討に取り組んだ。 看護必要度の高い病棟に1日8時間勤務できる非常勤看護師を配置し、効率的な7:1看護体制の維持に取り組んだ。</p> <p>○ 医師事務作業補助者(医療クラーク)については、計画的な配置により、医師の事務負担の軽減を図った。 ・ 医師事務作業補助体制加算(40対1)</p> <p>○ 医事業務専門職の増員による受付業務等の直営化 ・ 平成27年度以降、外来受付と診断書受付等業務を直営化し、効率的な業務遂行を図っている。</p> <p>医師事務作業補助者数ほか(各年度3.31時点)</p> <table border="1" data-bbox="1227 1254 1774 1366"> <thead> <tr> <th>職 種</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師事務作業補助者</td> <td>6名</td> <td>7名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>医療サービス業務専門職</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>20名</td> </tr> </tbody> </table>	28年度	29年度	30年度	3,711.0	2,532.1	2,252.2	職 種	28年度	29年度	30年度	医師事務作業補助者	6名	7名	7名	医療サービス業務専門職	20名	20名	20名		
28年度	29年度	30年度																					
3,711.0	2,532.1	2,252.2																					
職 種	28年度	29年度	30年度																				
医師事務作業補助者	6名	7名	7名																				
医療サービス業務専門職	20名	20名	20名																				

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																								
	3 3 法人間の人事交流による適 正な職員配置		<p>3 3 法人間の人事交流による適正な職員配置 必要に応じて3法人間で相互に職員を派遣し、医療サー ビスの水準を向上する。</p> <p>他法人からの受入状況</p> <table border="1" data-bbox="1227 400 1749 571"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>検査技師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> <td>0 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>他法人への出向状況</p> <table border="1" data-bbox="1227 624 1749 794"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>-</td> <td>1 名</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0 名</td> <td>1 名</td> <td>0 名</td> </tr> </tbody> </table>	職種	28 年度	29 年度	30 年度	薬剤師	-	-	-	検査技師	-	-	-	臨床工学技士	-	-	-	計	0 名	0 名	0 名	職種	28 年度	29 年度	30 年度	看護師	-	-	-	助産師	-	1 名	-	薬剤師	-	-	-	計	0 名	1 名	0 名		
職種	28 年度	29 年度	30 年度																																										
薬剤師	-	-	-																																										
検査技師	-	-	-																																										
臨床工学技士	-	-	-																																										
計	0 名	0 名	0 名																																										
職種	28 年度	29 年度	30 年度																																										
看護師	-	-	-																																										
助産師	-	1 名	-																																										
薬剤師	-	-	-																																										
計	0 名	1 名	0 名																																										
18	※ 人事評価システムの構築		<p>意欲をもって働くことができる人事評価制度の構築に向 けて、平成 28 年度から、事務局非常勤職員に対する人事評 価の本格施行、事務局常勤職員に対する試行（年度後半）を 行っている。平成 29 年度から、事務局常勤職員に加えコメ ディカル職員に対して、年間を通した人事評価（試行）を行 っており、平成 30 年度も引き続き人事評価（試行）を継続 実施し、人事評価制度の構築に向けて取り組んだ。</p> <p>また、職員の実績や資格等について再評価し、特別昇給へ の反映などで職員モチベーションの維持向上に努めた。</p> <p>看護部においては、引き続きクリニカルラダー評価により 昇格・昇任・特別昇給を実施した。</p> <p>また、非常勤看護補助者については、評価表を作成し、自 己評価後、師長・部長等面接を行うことにより、意欲向上に 努めた。組織が望む能力を示したことで、各自が振り返り、 教育への希望や業務への提案をするなどの姿勢がみられる ようになった。</p>	III	継続的な取り組みが実施 できているが、 <u>平年並みの 実績と評価。</u>																																								

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																
19	※ 事務部門の専門性の向上		<p>【医事課職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機関における請求事務のマネジメント 1名 病院中堅職員育成研修 1名 BCPブラッシュアップ訓練セミナー 1名 <p>【総務課・経営企画課職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 階層別研修「新規採用研修(前期)」 1名 県立3病院新規採用事務職員研修 1名 情報セキュリティ研修 1名 医療政策の動向と押さえておきたいポイント 1名 T o C o M D P C勉強会 2名 コーディング・スキルアップ勉強会 3名 女性医師等相談員養成のための研修会 1名 ぎふ・救急ネット実務担当者研修会 1名 診療報酬改定後 働き方改革等の医療政策の動向と押さえておきたいポイント 1名 BCP策定支援セミナー 1名 BCPブラッシュアップ訓練セミナー 2名 障がい者雇用セミナー 1名 医療機関における消費税の実務と留意点 1名 診療報酬改定セミナー 2名 <p>事務職員の状況 (各年度3.31時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロパー</td> <td>17名</td> <td>18名</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>県派遣</td> <td>8名</td> <td>7名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25名</td> <td>25名</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	プロパー	17名	18名	20名	県派遣	8名	7名	5名	計	25名	25名	25名	III	継続的な取り組みが実施できているが、 <u>平年並みの実績と評価。</u>
区分	28年度	29年度	30年度																		
プロパー	17名	18名	20名																		
県派遣	8名	7名	5名																		
計	25名	25名	25名																		
20	※ コンプライアンス(法令や倫理の遵守)の徹底		医療情報の情報開示については、診療情報の提供に関する指針に基づき、適切な対応を行った。	III	継続的な取り組みが実施できているが、 <u>平年並みの実績と評価。</u>																
21	※ 適切な情報管理		新規採用職員及び全職員に対する情報セキュリティ研修を実施するとともに、次世代ファイアウォールによるインターネット閲覧環境のセキュリティ強化を図った。	III	継続的な取り組みが実施できているが、 <u>平年並みの実績と評価。</u>																

過去の報告書に記載された改善方策のうちその実施が完了した旨の記載がないものがある場合には、その実施状況

病棟薬剤業務実施加算（●）

- 各病棟に薬剤師を配置し薬剤管理指導業務を含めた業務を展開している。また、担当薬剤師によるカンファレンスなどを行い資質向上にも努めている。
しかし、薬剤師の欠員補充ができず急性期病棟に週 20 時間薬剤師を配置することができないため、実施加算の算定要件を満たさないため実施できていない。
引き続き人員の確保に努める。

中期 目標	2-2 業務運営の見直しや効率化による収支の改善 地方独立行政法人制度の特徴を生かした業務内容の見直しや効率化を通じて、収支の改善を図ることを求める。
	※ 多様な契約手法の導入 透明性・公平性の確保に十分留意しつつ、複数年契約や複合契約など多様な契約手法を導入し、契約事務の合理化を図ること。 ※ 収入の確保 地域社会のニーズに即した病院経営を行うことにより、病床利用率や医療機器の稼働率を高め、収入の確保に努めること。 さらに、安定した経営を維持するため、国の医療制度改革や診療報酬改定等に速やかに対応すること。 ※ 費用の削減 薬剤・診療材料の購入方法の見直し、在庫管理の徹底、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の採用などにより費用の節減に努めること。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																				
22	※ 多様な契約手法の導入	<p>【管理担当】 平成 30 年度分の電気需給契約については、節電等により常時供給契約電力を引き下げることができ、大幅な経費削減を図ることが出来た。</p> <p>○ 医療機器のメンテナンス費用（保守委託）については、昨年度に引き続き、内容及び必要性を精査し、スポット契約への切り換える等により経費削減を図った。</p> <p style="text-align: right;">単位：千円（税込）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>契約額</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料金</td> <td>78,376</td> <td>71,602</td> <td>▲6,774</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守 11 件</td> <td>51,202</td> <td>50,706</td> <td>▲496</td> </tr> <tr> <td>検査装置保守 7 件</td> <td>4,115</td> <td>3,013</td> <td>▲1,102</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>133,693</td> <td>125,321</td> <td>▲8,372</td> </tr> </tbody> </table> <p>検討事項であった保守契約を取り止めることによる修繕費の増加については、平成 30 年度末時点での支出において、その影響は無く全体として経費の削減に繋がった。 今後も比較・分析を継続の上、有利な契約方針を決定していく必要がある。</p> <p>○ 次の維持管理業務については、平成 30 年度から 3 年間の複数年契約を改めて締結し、契約事務の集約化・簡素化・効率化を図るとともに、経費の節減に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 警備業務、機械、監視室等保全管理及び電話交換業務、建物清掃委託業務 	契約額	H29	H30	減額	電気料金	78,376	71,602	▲6,774	放射線機器保守 11 件	51,202	50,706	▲496	検査装置保守 7 件	4,115	3,013	▲1,102	計	133,693	125,321	▲8,372		IV	電気受給契約については、節電等による常時供給契約電力の引き下げにより経費を削減した。また、医療機器のメンテナンス費用（保守委託）については、業務内容を精査し、複数年契約業務も含めてスポット契約に切り換える等内容を見直し、経費削減を図っている点を評価し、項目全体で特に進捗していると評価。
契約額	H29	H30	減額																						
電気料金	78,376	71,602	▲6,774																						
放射線機器保守 11 件	51,202	50,706	▲496																						
検査装置保守 7 件	4,115	3,013	▲1,102																						
計	133,693	125,321	▲8,372																						

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																																																
23	※ 収入の確保 1 効率的な病床管理、医療機器の 効果的な活用		<p>1 効率的な病床管理、医療機器の効果的な活用 病棟ごとの稼働率を常に把握し、病院全体として効率的な活用ができるよう病床管理の徹底を引き続き実施した。 「地域包括ケア病棟」について、平成 30 年 10 月から 1 病棟 28 床を急性期病棟から地域包括ケア病棟に変更し、3 病棟 104 床とした。週 2 回の定例転棟会議を実施するとともに、急性期病棟の稼働状況に合わせ、臨時的転棟会議を実施するなど、効率的な運用により入院収益の向上を図った。</p> <p>病床利用率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病棟</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東 3 (包括ケア)</td> <td>68.3 %</td> <td>70.4 %</td> <td>65.3 %</td> </tr> <tr> <td>東 4 (包括ケア)</td> <td>77.6 %</td> <td>78.9 %</td> <td>75.5 %</td> </tr> <tr> <td>東 5</td> <td>84.9 %</td> <td>85.9 %</td> <td>78.2 %</td> </tr> <tr> <td>西 3 (回復期)</td> <td>91.3 %</td> <td>87.1 %</td> <td>84.8 %</td> </tr> <tr> <td>西 4 (包括ケア)</td> <td>77.8 %</td> <td>79.6 %</td> <td>72.6 %</td> </tr> <tr> <td>西 5</td> <td>83.2 %</td> <td>84.7 %</td> <td>83.7 %</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>80.5 %</td> <td>81.3 %</td> <td>76.8 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 届出病床数 206 床 注 2) 東 4 : H26. 9～ 地域包括ケア病棟移行 注 3) 西 4 : H28. 3～ 地域包括ケア病棟移行 注 4) 東 3 : H30. 10～ 地域包括ケア病棟移行</p> <p>その他の指標 (単位 収益:千円、単価:円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>60,489 名</td> <td>61,098 名</td> <td>57,711 名</td> </tr> <tr> <td>1 日平均入院患者数</td> <td>166 名</td> <td>167 名</td> <td>158 名</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>13.6 日</td> <td>12.6 日</td> <td>12.4 日</td> </tr> <tr> <td>入院収益</td> <td>2,194,896</td> <td>2,275,630</td> <td>2,235,846</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価</td> <td>36,286</td> <td>37,246</td> <td>38,742</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>84,082 名</td> <td>85,636 名</td> <td>87,590 名</td> </tr> <tr> <td>1 日平均外来患者数</td> <td>346 名</td> <td>351 名</td> <td>359 名</td> </tr> </tbody> </table>	病棟	28 年度	29 年度	30 年度	東 3 (包括ケア)	68.3 %	70.4 %	65.3 %	東 4 (包括ケア)	77.6 %	78.9 %	75.5 %	東 5	84.9 %	85.9 %	78.2 %	西 3 (回復期)	91.3 %	87.1 %	84.8 %	西 4 (包括ケア)	77.8 %	79.6 %	72.6 %	西 5	83.2 %	84.7 %	83.7 %	全体	80.5 %	81.3 %	76.8 %	項目	28 年度	29 年度	30 年度	入院延患者数	60,489 名	61,098 名	57,711 名	1 日平均入院患者数	166 名	167 名	158 名	平均在院日数	13.6 日	12.6 日	12.4 日	入院収益	2,194,896	2,275,630	2,235,846	入院診療単価	36,286	37,246	38,742	外来延患者数	84,082 名	85,636 名	87,590 名	1 日平均外来患者数	346 名	351 名	359 名	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。
病棟	28 年度	29 年度	30 年度																																																																		
東 3 (包括ケア)	68.3 %	70.4 %	65.3 %																																																																		
東 4 (包括ケア)	77.6 %	78.9 %	75.5 %																																																																		
東 5	84.9 %	85.9 %	78.2 %																																																																		
西 3 (回復期)	91.3 %	87.1 %	84.8 %																																																																		
西 4 (包括ケア)	77.8 %	79.6 %	72.6 %																																																																		
西 5	83.2 %	84.7 %	83.7 %																																																																		
全体	80.5 %	81.3 %	76.8 %																																																																		
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																																																		
入院延患者数	60,489 名	61,098 名	57,711 名																																																																		
1 日平均入院患者数	166 名	167 名	158 名																																																																		
平均在院日数	13.6 日	12.6 日	12.4 日																																																																		
入院収益	2,194,896	2,275,630	2,235,846																																																																		
入院診療単価	36,286	37,246	38,742																																																																		
外来延患者数	84,082 名	85,636 名	87,590 名																																																																		
1 日平均外来患者数	346 名	351 名	359 名																																																																		

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																												
	2 未収金の発生防止対策等		<table border="1" data-bbox="1223 256 1780 408"> <tr> <td>外来収益</td> <td>967,636</td> <td>995,504</td> <td>1,028,828</td> </tr> <tr> <td>外来診療単価</td> <td>11,508</td> <td>11,625</td> <td>11,746</td> </tr> <tr> <td>室料差額収益(特別室)</td> <td>9,128</td> <td>6,928</td> <td>6,665</td> </tr> <tr> <td>受託検査収益</td> <td>1,943</td> <td>2,337</td> <td>2,501</td> </tr> </table> <p data-bbox="1245 411 1742 435">注1) 平均在院日数は重症者・回復期病棟等を除く</p> <p data-bbox="1245 443 1485 467">注2) 金額は税込で表示</p> <p data-bbox="1205 507 1485 531">2 未収金の発生防止対策等</p> <p data-bbox="1205 539 1780 699">未収金発生防止については、入院費用等に高額療養費限度額適用(現物給付)や出産育児一時金直接支払制度利用等勧めるとともに、医療相談により、各種福祉制度の申請や市の福祉担当者との連携を図るなど、診療費の負担軽減に努めた。</p> <p data-bbox="1205 707 1780 770">発生した未収金に対しては、電話や臨宅による催告必要に応じて実施し、分納制度を活用するなどして回収に努めた。</p> <p data-bbox="1234 786 1709 810">【参考】未収金の発生状況と未収額(金額:千円)</p> <table border="1" data-bbox="1223 818 1697 946"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現年度件数</td> <td>185件</td> <td>161件</td> <td>132件</td> </tr> <tr> <td>未収金額</td> <td>4,389</td> <td>5,480</td> <td>4,431</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1223 954 1780 978">※未収金額は、翌年度4月末までに納付されなかった金額</p>	外来収益	967,636	995,504	1,028,828	外来診療単価	11,508	11,625	11,746	室料差額収益(特別室)	9,128	6,928	6,665	受託検査収益	1,943	2,337	2,501	項目	28年度	29年度	30年度	現年度件数	185件	161件	132件	未収金額	4,389	5,480	4,431		
外来収益	967,636	995,504	1,028,828																														
外来診療単価	11,508	11,625	11,746																														
室料差額収益(特別室)	9,128	6,928	6,665																														
受託検査収益	1,943	2,337	2,501																														
項目	28年度	29年度	30年度																														
現年度件数	185件	161件	132件																														
未収金額	4,389	5,480	4,431																														
	3 施設基準の取得		<p data-bbox="1205 1018 1395 1042">3 施設基準の取得</p> <p data-bbox="1205 1050 1780 1193">平成30年度の診療報酬改定に合わせ、入院基本料等の基準の見直し及び新設された抗菌薬適正使用支援加算及び医療安全対策地域連携加算を取得した。また、平成30年10月1日より東3病棟28床を急性期一般病棟入院料1から地域包括ケア病棟入院料2に変更した。</p> <p data-bbox="1227 1201 1709 1225">その他、以下の施設基準を届出・算定を開始した。</p> <p data-bbox="1205 1233 1753 1257"><基本> 認知症ケア加算2 平成30年9月1日取得</p>																														
	4 国の医療制度改革や診療報酬改定等の迅速な対応		<p data-bbox="1205 1289 1720 1313">4 国の医療制度改革や診療報酬改定等の迅速な対応</p> <p data-bbox="1205 1321 1780 1409">診療報酬の改定に対応するため、医事課及び経営企画課職員が、外部で行われた各種研修会へ参加するとともに、院内各部署への説明会を行った。</p>																														

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																
24	※ 費用の削減 1 在庫管理の徹底等 2 後発医薬品の効率的採用 3 経営意識の向上	1 在庫管理の徹底等 医薬品・診療材料における物流システム、給食材料における栄養管理システムの活用により重複購入・期限切れによる廃棄物品の削減など適正在庫の実現と在庫圧縮に努めることで費用節減を図ったほか、より安価な物品の発掘に努め、医療現場、各委員会ですれらの採用を諮り、積極的に類似物品の切り替えを実施した。 ○ 医薬収益に対する材料費比率 <table border="1" data-bbox="577 523 1059 705"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品費</td> <td>9.8 %</td> <td>10.3 %</td> <td>10.2 %</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>5.2 %</td> <td>5.4 %</td> <td>5.4 %</td> </tr> <tr> <td>給食材料費</td> <td>1.0 %</td> <td>1.0 %</td> <td>1.0 %</td> </tr> <tr> <td>材料全体</td> <td>16.0 %</td> <td>16.7 %</td> <td>16.6 %</td> </tr> </tbody> </table>	項目	28 年度	29 年度	30 年度	薬品費	9.8 %	10.3 %	10.2 %	診療材料費	5.2 %	5.4 %	5.4 %	給食材料費	1.0 %	1.0 %	1.0 %	材料全体	16.0 %	16.7 %	16.6 %	2 後発医薬品の効率的採用 処方オーダーシステムを改善し、医師の後発医薬品への処方変更を容易にする環境を整えたことや新たな後発医薬品の採用により、品目ベースの比率は0.5%増加、使用量ベースでは5.8%増加している。引き続き、後発医薬品の採用、先発医薬品からの切り替えなどの検討を重ね、効率的な後発品の採用を考慮していく。 ○ ジェネリック医薬品の採用比率 <table border="1" data-bbox="1234 1045 1758 1157"> <thead> <tr> <th>採用比率</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品目ベース</td> <td>9.2 %</td> <td>9.2 %</td> <td>9.7 %</td> </tr> <tr> <td>使用数量ベース</td> <td>31.4 %</td> <td>37.8 %</td> <td>43.6 %</td> </tr> </tbody> </table> ※使用数量ベース 後発医薬品／（後発＋先発医薬品） 3 経営意識の向上 ○ 経営概要（業務量、収支状況）を院内の掲示板「サイボウズ」に掲示し、職員の経営意識の向上を図り、日々の業務において改善できることは直ぐに実行し、費用削減に努めた。	採用比率	28 年度	29 年度	30 年度	品目ベース	9.2 %	9.2 %	9.7 %	使用数量ベース	31.4 %	37.8 %	43.6 %	III	材料費比率の改善については評価できるものの、平年並みの実績と評価。
項目	28 年度	29 年度	30 年度																																		
薬品費	9.8 %	10.3 %	10.2 %																																		
診療材料費	5.2 %	5.4 %	5.4 %																																		
給食材料費	1.0 %	1.0 %	1.0 %																																		
材料全体	16.0 %	16.7 %	16.6 %																																		
採用比率	28 年度	29 年度	30 年度																																		
品目ベース	9.2 %	9.2 %	9.7 %																																		
使用数量ベース	31.4 %	37.8 %	43.6 %																																		

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由								
	4 内部牽制機能の強化		<p>○ 食材費について、冬季、夏季の異常気象の影響で生鮮野菜の高騰や運賃の値上げがあり、目標としていた1日1人当たり650円以下を達成することはできなかった。食材メーカー、納入業者及び食材等の見直しを進めたことにより目標額に近づけることが出来た。</p> <table border="1" data-bbox="1229 429 1767 496"> <thead> <tr> <th>項目（税込金額）</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食材費/日・人</td> <td>643円</td> <td>638円</td> <td>665円</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 内部牽制機能の強化 物品の請求の際は各部署において責任者(看護部の場合は各セクション責任者から看護部)の承認を受けて請求する等の内部管理体制を徹底した。 平成29年度の経営企画課情報担当及び看護部の執行内容を対象とした監査に引き続き、平成30年度は、総務課管理担当、総務担当及び医療安全対策室の執行内容について内部監査を実施した。</p>	項目（税込金額）	28年度	29年度	30年度	食材費/日・人	643円	638円	665円		
項目（税込金額）	28年度	29年度	30年度										
食材費/日・人	643円	638円	665円										

3 予算(人件費の見積含む。)、収支計画及び資金計画

中期目標	※ 経常収支比率 業務運営の改善及び効率化を効果的に進めることで、中期目標期間の最終年度までに経常収支比率100%以上を達成すること。 ※ 職員給与費対医業収益比率 職員給与費対医業収益比率については、同規模の全国自治体病院のうち黒字病院であるものの当該比率の平均値を参考に、中期計画にその目標を定め、中期目標期間の最終年度までに達成すること。
------	---

項目No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己評価	自己評価理由																																
25	「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率を100%以上及び職員給与費対医業収益比率を60%以下とすることを旨とする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(評価結果の反映状況) 経常収支比率、医業収支比率及び職員給与費対医業収益比率は、前年度比でいずれも改善したものの、年度計画を下回っている。次年度以降、引き続き経常収支比率及び医業収支比率100%以上、職員給与費対医業収益比率60%以下を目指して経営努力を続けていく。</p> </div>	<p>【経常収支比率】(●) 経常収支比率について、収支計画の設定比率91.2%に対して、決算では90.7%となり、0.5ポイント計画を下回った。</p> <p>【医業収支比率】(●) 医業収支比率について、収支計画の設定比率94.5%に対して、決算では93.4%となり、1.1ポイント計画を下回った。</p> <p>【職員給与費対医業収益比率】(●) 職員給与費対医業収益比率について、収支計画の設定比率80.1%に対して、決算では83.4%となり、3.3ポイント下回った。</p> <p>次年度以降、引き続き経常収支比率及び医業収支比率100%以上、職員給与費対医業収益比率60%以下を目指して経営努力を続けていく。</p> <p>1 予算に対する実績(予算執行状況) (単位:百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計画額</th> <th>決算額</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 営業収益</td> <td>4,513</td> <td>4,364</td> <td>▲149</td> </tr> <tr> <td> 医業収益</td> <td>3,604</td> <td>3,419</td> <td>▲185</td> </tr> <tr> <td> 運営費負担金収益</td> <td>878</td> <td>914</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td> その他営業収益</td> <td>32</td> <td>31</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td> 営業外収益</td> <td>69</td> <td>72</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td> 運営費負担金収益</td> <td>57</td> <td>57</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	計画額	決算額	増減	収入				営業収益	4,513	4,364	▲149	医業収益	3,604	3,419	▲185	運営費負担金収益	878	914	36	その他営業収益	32	31	▲1	営業外収益	69	72	3	運営費負担金収益	57	57	0	II	経営改善に取り組み、営業収益は前年度比で増加したものの、年度計画を下回っているため、「II」と評価。
区 分	計画額	決算額	増減																																		
収入																																					
営業収益	4,513	4,364	▲149																																		
医業収益	3,604	3,419	▲185																																		
運営費負担金収益	878	914	36																																		
その他営業収益	32	31	▲1																																		
営業外収益	69	72	3																																		
運営費負担金収益	57	57	0																																		

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)			自己 評価	自己評価理由
			その他営業外収益	12	16	4	
			資本収入	261	187	▲74	
			長期借入金	112	24	▲88	
			運営費負担金	135	118	▲17	
			その他資本収入	15	45	30	
			その他の収入	0	2	2	
			計	4,844	4,625	▲219	
			支出				
			営業費用	4,085	4,330	245	
			医業費用	3,866	4,084	218	
			給与費	2,399	2,715	316	
			材料費	611	612	1	
			経費	837	738	▲99	
			研究研修費	19	18	▲1	
			一般管理費	219	246	27	
			給与費	158	182	24	
			経費	60	64	4	
			営業外費用	98	97	▲1	
			資本支出	381	296	▲85	
			建設改良費	179	97	▲82	
			償還金	198	197	▲1	
			その他資本支出	4	2	▲2	
			その他の支出	0	148	148	
			計	4,564	4,872	308	
			(注1) 各項目の数値は、端数をそれぞれ四捨五入している。 そのため、各項目ごとの数値の合計と計の欄の数値は一致しないことがある。				
			2 収支計画に対する実績 (損益計算書)				
			(単位:百万円)				
			区 分	計画額	決算額	増減	
			収益の部	4,570	4,443	▲127	
			営業収益	4,501	4,344	▲157	
			医業収益	3,592	3,407	▲185	
			運営費負担金収益	878	907	29	
			資産見返負債戻入	0	0	0	
			その他営業収益	31	31	0	

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)			自己 評価	自己評価理由	
			営業外収益	69	96	27		
			運営費負担金収益	57	57	0		
			その他営業外収益	11	40	29		
			臨時利益	0	2	2		
			費用の部	5,009	5,045	36		
			営業費用	4,762	4,652	▲110		
			医業費用	4,512	4,410	▲102		
			給与費	2,700	2,678	▲22		
			材料費	566	566	0		
			経費	787	699	▲88		
			減価償却費	441	453	12		
			研究研修費	18	15	▲3		
			一般管理費	250	242	▲8		
			給与費	178	164	▲14		
			減価償却費	22	21	▲1		
			経費	50	56	6		
			営業外費用	247	245	▲2		
			臨時損失	0	148	148		
			予備費	0	0	0		
			純利益	▲439	▲602	▲163		
			目的積立金取崩額	0	0	0		
			総利益	▲439	▲602	▲163		
			(注1) 略					
			3 資金計画に対する実績					
			(単位:百万円)					
			区 分	計画額	決算額	増減		
			資金収入	7,283	7,051	▲232		
			業務活動による収入	4,583	4,419	▲164		
			診療業務による収入	3,604	3,397	▲207		
			運営費負担金による収入	936	971	35		
			その他の業務活動による収入	43	51	8		
			投資活動による収入	150	7	▲143		
			運営費負担金による収入	135	7	▲128		
			その他の投資活動による収入	15	0	▲15		
			財務活動による収入	112	135	23		
			長期借入による収入	112	24	▲88		

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)			自己 評価	自己評価理由	
			その他の財務活動による収入	0	111	111		
			前事業年度からの繰越金	2,438	2,491	53		
			資金支出	7,283	7,051	▲232		
			業務活動による支出	4,183	4,555	372		
			給与費支出	2,557	3,033	476		
			材料費支出	611	613	2		
			その他の業務活動による支出	1,015	909	▲106		
			投資活動による支出	182	91	▲91		
			有形固定資産の取得による支出	179	89	▲90		
			その他の投資活動による支出	3	2	▲1		
			財務活動による支出	198	197	▲1		
			長期借入金の返済による支出	127	126	▲1		
			前前地が債権譲渡の債権による支出	71	71	0		
			その他財務活動による支出	0	0	0		
			翌事業年度への繰越金	2,720	2,208	▲512		
			(注1) 単位					

過去の報告書に記載された改善方策のうちその実施が完了した旨の記載がないものがある場合には、その実施状況

経常収支比率、医業収支比率、職員給与費対医業収益比率 (●)

- 経常収支比率及び医業収支比率は、前年度比でいずれも改善したものの年度計画を下回っている。職員給与費対医業収益比率は悪化し、年度計画を下回っている。
 - ・ 経常収支比率 89.6% (H29) → 90.7% (H30) H30 計画の設定比率 91.2%
 - ・ 医業収支比率 93.1% (H29) → 93.4% (H30) H30 計画の設定比率 94.5%
 - ・ 職員給与費対医業収益比率 80.6% (H29) → 83.4% (H30) H30 計画の設定比率 80.1%
- 営業収益については、入院収益は約 4,000 万円減少したものの、外来収益約 3,300 万円の増や運営費負担金約 8,700 万円の増などにより、約 7,900 万円増加した。
 - ・ 入院延べ患者数の減に伴う収益減 61,098 人 (H29) → 57,711 人 (H30) 3,387 人減 5.5%減
入院の診療単価 37,246 円 (H29) → 38,742 円 (H30) 1,496 円増 4.0%増
 - ・ 外来延べ患者数の増に伴う収益増 85,636 人 (H29) → 87,590 人 (H30) 1,954 人増 2.3%増
外来の診療単価 11,625 円 (H29) → 11,746 円 (H30) 121 円増 1.0%増
- 営業費用については、医療機器保守委託料等に係る契約方法の見直しなどにより経費を削減したが、職員数の増により給与費が増加し、約 7,300 万円増加した。

4 短期借入金の限度額

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
—	※ 短期借入金の限度額 1 限度額 2 想定される短期借入金の発生理 由		1 限度額 ・ 5億円 2 想定される短期借入金の発生理 由 ・ 実績なし	—	

5 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
—	※ 出資等に係る不要財産又は出資 等に係る不要財産となることが見 込まれる財産がある場合には、当 該財産の処分に関する計画		・ 該当なし	—	

6 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
—	※ 重要な財産を譲渡し、又は担保 に供しようとするときは、その計 画		・ 該当なし	—	

7 剰余金の使途

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
—	※ 剰余金の使途		・ 該当なし	—	

8 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期 目標	8-1 職員の就労環境の向上	職員の実情等を考慮した柔軟な勤務形態の導入、院内保育施設等の整備・拡充といった育児支援体制の充実など、日常業務の質の向上を図るために必要な職員の就労環境の整備に努めること。 さらに、地方独立行政法人制度の特徴を十分に生かし、医療従事者を必要数確保することによって、病院職員全体の勤務環境を改善すること。
	8-2 岐阜県及び他の地方独立行政法人との連携	人事交流など、岐阜県及び岐阜県の設立した他の地方独立行政法人との連携を推進すること。
	8-3 施設・医療機器の整備	病棟などの施設整備や医療機器整備については、県民の医療需要、費用対効果、医療技術の進展などを総合的に勘案して計画的に実施すること。
	8-4 法人が負担する債務の償還に関する事項	法人は、岐阜県に対して負担する地方独立行政法人法第86条第1項に規定する債務の処理を確実にを行うこと。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30年度計画で特に進捗した取組/ 評価結果の反映状況	その他の主な取組/ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
26	※ 職員の就労環境の向上 1 職員の就労環境の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(評価結果の反映状況) 時間外勤務の事前命令・事後確認の徹底、電子カルテ等によるアクセスログ管理に加え、事務局にタイムカードを試験導入し、時間外勤務等の適正化を図った。</p> </div>	<p>1 職員の就労環境の整備 職員の就労環境の整備</p> <p>○ 夜間救急外来における当直受付業務に係る常勤職員の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度まで常勤職員のみで行っていた夜間当直受付業務について、消防職員OBを非常勤職員として引き続き採用、計5名体制とし、これにより常勤職員の負担の軽減を図っている。 <p>○ 複数の勤務時間設定による時間外勤務の縮減 勤務時間を複数設定し業務に応じた勤務時間の指定をすることで外来受付等の早出業務を勤務時間内の業務とするよう対応した。</p> <p>○ 平成29年度の高山労働基準監督署による是正勧告に対する改善報告も踏まえ、引き続き、労働管理の適正化を図った。 また、時間外勤務の事前命令・事後確認の徹底、電子カルテ等によるアクセスログ管理に加え、事務局にタイムカードを試験導入し、時間外勤務等の適正化を図った。</p>	III	タイムカードの試験導入など評価できる点はあるものの、平年並みの実績と評価。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由												
	2 職員の健康管理対策の充実 3 院内保育施設の充実		<p>2 職員の健康管理対策の充実 健康管理対策実施状況</p> <p>【健康診断関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健康診断 受診数 158 名 ・ 特殊健康診断 (有機溶剤) 受診数 4 名 ・ 特殊健康診断 (深夜業務・X線) 受診数 296 名 ・ 人間ドック 受診数 153 名 <p>※以上、常勤職員について記載</p> <p>【指導用教材購入事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健指導教材の購入 職員定期健康診断において、血圧、メタボリックシンドローム、脂質、血糖で所見のあった者に対し、所見内容に応じた指導箋・リーフレットを配布し、保健指導を行った。 <p>【ストレスチェック制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ストレスチェック制度の実施 義務化されたストレスチェック制度を平成 30 年度から開始した。 <p>3 院内保育施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内保育所 幼児を持つ病院職員が働きやすい環境整備に努め、平成 30 年度は 10 名の託児を受け入れた。 また、平成 24 年 6 月から制度化された土曜保育は、病院職員の勤務体制確立の一役を担っている。 <p>院内保育所の運営状況 (各年 3. 31 時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所児童数</td> <td>5 名</td> <td>13 名</td> <td>10 名</td> </tr> <tr> <td>保育士数</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> </tr> </tbody> </table>		28 年度	29 年度	30 年度	入所児童数	5 名	13 名	10 名	保育士数	5 名	5 名	5 名		
	28 年度	29 年度	30 年度														
入所児童数	5 名	13 名	10 名														
保育士数	5 名	5 名	5 名														
27	※ 岐阜県及び他の地方独立行政法人との連携に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人会議での意見交換等 県 (医療整備課等) 及び 4 法人 (3 病院・看護大) の会議等に参加し、法人の課題等に対する意見交換等を行った。 	Ⅲ	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。												

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由
28	※ 施設・医療機器の整備に関する 事項 1 医療機器の計画的な更新・整備		<p>1 医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none">○ 計画的な更新・整備<ul style="list-style-type: none">・ 老朽化、メーカーメンテナンス期間終了後の故障機器等使用不能により日々の診療に支障を来す機器の更新・整備を中心に実施した。 また平成30年6月より耳鼻咽喉科が常勤医師となったことにより、外来診療に不可欠な関係機器6機種を新たに整備した。高額機器については、極力補助金活用による導入を目指し、計画的な機器の更新を図った。・ 平成30年度導入医療機器 耳鼻咽喉用内視鏡ビデオシステム 他25品目 計97,105千円○ 補助金の活用による整備<ul style="list-style-type: none">・ 岐阜県医療施設等設備整備費補助金（へき地医療拠点病院設備整備費補助金） 核医学診断検査装置（ガンマカメラ）・ 下呂市地域医療確保施設設備整備事業費補助金 外科用イメージ装置・ 保健衛生施設等施設整備費補助金（岐阜県重症難病患者拠点・協力病院設備整備費補助金） 多人数用透析患者監視装置 個人用透析患者監視装置 搬送用人工呼吸器 <p>2 施設の計画的な整備</p> <p>職員の福利厚生施設（別棟）の整備については、経営状況の改善に努め、その状況に応じて、検討に着手する。</p>	III	継続的な取り組みが実施できているが、平年並みの実績と評価。

項目 No.	中期計画の取組項目	H30 年度計画で特に進捗した取組／ 評価結果の反映状況	その他の主な取組／ 課題及びその改善策(●)	自己 評価	自己評価理由																																														
29	※ 法人が負担する債務の償還に関する事項		<p>岐阜県に対し負担する債務について、次のとおり償還を行った。</p> <p>○ 当期の償還状況 (移行前地方債償還債務)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td>469,418,067 円</td> </tr> <tr> <td>当期償還額</td> <td>71,332,849 円</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td>398,085,218 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(長期借入金)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td>5,011,643,448 円</td> </tr> <tr> <td>当期借入額</td> <td>23,900,000 円</td> </tr> <tr> <td>当期償還額</td> <td>126,102,730 円</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td>4,909,440,718 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 年度別の償還状況 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">第 1 期中期計画 期間(H22-26 計)</td> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>934</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還額</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">27 年度</td> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還額</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">28 年度</td> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還額</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29 年度</td> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還額</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30 年度</td> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>長期借入金償還額</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	金額	期首残高	469,418,067 円	当期償還額	71,332,849 円	期末残高	398,085,218 円	区 分	金額	期首残高	5,011,643,448 円	当期借入額	23,900,000 円	当期償還額	126,102,730 円	期末残高	4,909,440,718 円	年度	実績	実績	第 1 期中期計画 期間(H22-26 計)	移行前地方債償還債務	934	長期借入金償還額	62	27 年度	移行前地方債償還債務	62	長期借入金償還額	34	28 年度	移行前地方債償還債務	65	長期借入金償還額	63	29 年度	移行前地方債償還債務	68	長期借入金償還額	105	30 年度	移行前地方債償還債務	71	長期借入金償還額	126	III	岐阜県に対し負担する債務の償還を確実にっており、平年並みの実績と評価。
区 分	金額																																																		
期首残高	469,418,067 円																																																		
当期償還額	71,332,849 円																																																		
期末残高	398,085,218 円																																																		
区 分	金額																																																		
期首残高	5,011,643,448 円																																																		
当期借入額	23,900,000 円																																																		
当期償還額	126,102,730 円																																																		
期末残高	4,909,440,718 円																																																		
年度	実績	実績																																																	
第 1 期中期計画 期間(H22-26 計)	移行前地方債償還債務	934																																																	
	長期借入金償還額	62																																																	
27 年度	移行前地方債償還債務	62																																																	
	長期借入金償還額	34																																																	
28 年度	移行前地方債償還債務	65																																																	
	長期借入金償還額	63																																																	
29 年度	移行前地方債償還債務	68																																																	
	長期借入金償還額	105																																																	
30 年度	移行前地方債償還債務	71																																																	
	長期借入金償還額	126																																																	